新富町立図書館図書システム整備事業

仕様書

宮崎県新富町
平成２７年９月

目　次

第１章　本事業の目的と背景について　…… 1
　第１節　新富町複合施設の建設とその目的　…… 1
　第２節　本事業の目的　…… 1
第２章　図書システムの整備に向けた考え方　…… 2
　第１節　導入並びに運用方針　…… 2
　第２節　クラウド型システム導入にあたる前提条件　…… 2
　第３節　導入場所　…… 2
　第４節　システムの概要　…… 3
　第５節　システムの調達範囲　…… 3
　第６節　導入業務と運用業務の事業期間 …… 5
第３章　システムの導入　…… 5
　第１節　事業計画　…… 5
　第２節　設計　…… 5
　第３節　開発　…… 5
　第４節　ハードウェア仕様　…… 6
　第５節　利用者カード　…… 6
　第６節　ホームページ開設　…… 6
　第７節　ネットワーク構成及びネットワーク機器類　…… 7
　第８節　データ移行　…… 7
　第９節　テスト　…… 7
　第１０節　研修及びマニュアル整備　…… 7
　第１１節　稼動支援　…… 8
　第１２節　本稼働の立会い　…… 8
第４章　システムの運用　…… 8
　第１節　基本事項　…… 8
　第２節　稼働期間及び時間　…… 8
　第３節　セキュリティ管理　…… 8
　第４節　システム運用支援　…… 9
　第５節　保守対応　…… 9
　第６節　障害･故障対応　……１０
各機器設置予定ポイント一覧　……１１
機器性能仕様一覧　……１２
図書システム機能要求一覧　……１９
事業積算設計書　……３０

第１章　本事業の背景と目的

第１節　新富町複合施設の建設とその目的

新富町は、新富町複合施設基本構想・基本計画(平成 24 年 3 月)に基づき、複合施設を建築中である。

本施設は、公民館、図書館、児童館（子ども図書館)、博物館で構成されており、それぞれの施設が特長ある事業展開を行うとともに、ハード面及びソフト面にわたる様々な場面で連携をとり、複合施設ならではの多面的な魅力を発信し、相乗効果をあげることが求められている。

（１）公民館機能

新富町の生涯学習の推進や、町づくりのための人材育成のために、コミュニティゾーンとしての施設整備を図る。

①既存の中央公民館の機能を継承しつつ、内容の充実化を図る。
②生涯学習に必要な人材バンクなどの情報を整理し、地域の方々の交流を支援する。
③さまざまな世代のみなさんが使いやすい空間づくりを進める。
④社会教育団体や町づくり団体がグループで協議し、資料を作成する空間を充実させる。
⑤調理室を拡充し、食を通じた学びや交流の空間を充実化する。

（２）博物館機能

町のあらゆる資料を収集し、過去の記録を保管し、町民のみなさんの地域活動に貢献する。さまざまな地域情報の中から社会環境・自然環境の変化を知り、明日の地域づくりに生かす活動を支援する。

①新富町史編さん時に集めた資料を保管し、地域資料のデジタル化を進める。
②収集した資料をプライバシーの問題を考慮しつつ公開し、地域づくりに活用できるようにする。
③新富町のことを理解するためのテーマ性を持った常設展示を設置する。
④埋蔵文化財を中心とした文化財資料を保管し、定期的に特別展示を行う。
⑤宮崎県の進める「ひむか学」に対応した地域学習の場として活用できるよう、児童生徒の学習の場としての整備を進める。
⑥子どもから大人まで楽しめる新富町ならではの史跡や天然記念物をフィールドミュージアムと捉え、その理解を進めるための拠点とする。

（３）図書館・子ども図書館（児童館）機能

図書館は所蔵するすべての資料と図書ネットワークを活用した情報から、みなさんの日常活動を支援する。また居心地のよい空間を創出し、みなさんの活力源となるよう工夫する。

①すべての人の居場所をめざす。

あらゆる世代のすべての人が気軽に利用できるよう、赤ちゃん絵本やヤングアダルト本を始め、大活字本や録音資料、点字資料など、成長過程や利用者のニーズにあった利用を収集・提供する。時には図書館員や他の利用者との交流があるような、ゆったりと快適に過ごせる我が家のような滞在型の図書空間を目指す。

②「なんでもある・発見がある」を目指す。

各分野の基礎資料に加え、仕事や学業、趣味など、くらしを豊かにする資料を様々なネットワークを介して幅広く提供する。館内では旬な話題をテーマとした展示を定期的に行い、いつでも発見や楽しみがある空間を目指す。

③いつまでも魅力あふれる図書館を目指す。

講座等での情報リテラシーの育成や、情報格差の解消に努める。また、町内のネットワーク化された図書システムを活かし、各サービスポイントや様々な公的機関等とのネットワーク化を目指す。

第２節　本事業の目的

新富町複合施設は前述のような幅広い機能を備え、町民の生涯学習や地域活動、読書活動の中心拠点となり、中でも図書館はその中心的な役割を担う。

図書館は住民の身近にあって、さまざまな情報を収集、管理しその利用に供する使命を持っている。とりわけ生涯学習においては、住民の学習要求やアクセス手段が多様化・高度化しており、地域の情報拠点としての図書館の果たす役割はますます重要となっている。そのため今回の整備で情報発信力の強化は大きなテーマになる。

図書館の求められる以上のような機能を果たし、他機能との連携を図るため、本事業では従来の図書館システム以上の利用者向けサービス機能を強化し、効率的な運営を実現したい。

第２章　図書システムの整備に向けた考え方

第１節　導入並びに運用方針

（１）本町同等またはそれ以上の規模の自治体で、導入実績のあるパッケージシステムであり、SaaS（クラウド）で結ぶ図書システムであること
（２）IC タグによる自動貸出等を開始することで効率的な運営を実現すること。
（３）システムのサーバへの不正なアクセスやデータの改ざん、漏えいを防ぐために、パスワード認証等やアクセス制限等のネットワーク制限等のセキュリティを備えていること。
（４）ウィルス対策や、個人情報の漏洩防止対策などセキュリティに十分配慮したシステムとすること。
（５）インターネットを通じて 24 時間 365 日いつでも蔵書検索・予約を行うことができるよう書誌情報を公開するとともに、利用者の利便性を考慮してメンテナンス停止時間は極力短くすること。
（６）システムのソフト・ハードともに十分な安定性と実績を持ち、故障発生時には迅速に対応可能な保守体制を確保すること。
（７）ネットワーク回線に障害が発生した際にオフラインで運用を継続できる仕組みを用意すること。
（８）インターネットを通じた情報発信力強化として、新着本お知らせや、推奨図書・イベント等の紹介を、メールあるいはホームページから職員が容易に操作できる仕組みを用意すること。
（９）ブックリストや、読後評価などの読書推進サービスが行えること。
（10）町立学校との連携を図るため、学校図書館システムパッケージにおいて実績のあるものを導入し、各小中学校のデータベースは、統合管理方式とすることで、学校現場の業務負担の増大を抑制できること。

第２節　クラウド型システム導入にあたる前提条件

図書システムには利用者の個人情報が格納されるため、事業者には以下の各要件を求める。
（１）事業者は高度な情報セキュリティマネジメントが不可欠であるため、以下の全てを満たしていることを示す資格取得証明書（写し）を提出すること。
　① ISO9001（品質マネジメントシステム）
　② ISO27001（システムの開発や運用における適正な情報セキュリティの管理）
　③ プライバシーマーク（個人情報について適切な保護措置を講じる体制の整備）
（２）クラウド運用センターの設備は十分なセキュリティと耐障害・継続性を持ったものであること。
（３）受託者が業務を遂行するに際して、十分なセキュリティ対策が常に施されるよう、町の担当者が調査及び確認を行う場合があるため、現地視察を受け入れられること。
（４）センター運用者は現場責任者を配置して、責任所在明確化と運用徹底を図るとともに、責任者以外の運用業務従事者に対して十分な情報セキュリティ研修や運用規則の順守を図ること。
（５）構築期間及び運用期間中に個人情報漏洩がないように、町と事業者の間でのデータ受け渡しには特に慎重を期すこととする。構築の際のデータ移行や変換作業においても例外なく館外へのデータ持ち出しは厳重に禁止とする。

第３節　導入場所

本システムの導入場所は以下のとおりである。

	名称	住所
1	新富町立図書館	宮崎県児湯郡新富町大字上富田 6354 番地 5
2	新富町役場新田支所	宮崎県児湯郡新富町大字新田 7302 番地
3	富田小学校図書室	宮崎県児湯郡新富町大字富田東１丁目 70 番地
4	富田中学校図書室	宮崎県児湯郡新富町大字富田東２丁目 30 番地
5	新田学園小学部図書室	宮崎県児湯郡新富町大字新田 7717 番地 1 外
6	新田学園中学部図書室	宮崎県児湯郡新富町大字新田 5795 番地
7	上新田小学校図書室	宮崎県児湯郡新富町大字新田 16416 番地
8	上新田中学校図書室	宮崎県児湯郡新富町大字新田 17053 番地 8

表１　各システム導入箇所一覧

第４節　システムの概要

各機能は以下の全ての項目を満たす必要がある。

なお図書システム機能要求一覧（Ｐ18～Ｐ20）の全てを達成できるシステムであること。

	業務名	業務内容
1	窓口業務	資料の貸出・返却、利用者登録、資料の予約を行う。また、貸出期限を延滞した利用者に督促をするためのリストやデータの出力を行う。
2	収書・受入業務機能	選書・発注・受入業務を行う。購入先や寄贈者、購入価格。資料コードなどを入力する。受入日ごとに明細書・図書原簿を帳票出力する。
3	書誌データ整備・管理機能	MARC フォーマットに準拠した書誌データを作成、編集、複写、削除などを行う。
4	所蔵データ整備・管理機能	資料コードから各種管理情報を確認、修正する。また、蔵書点検を行う。
5	統計作成・帳票出力機能	各種統計、帳票を出力する。また CSV ファイルでも出力する。
6	館内ＯＰＡＣ機能	図書館利用者が専用の端末で資料の検索を行う。 大人用と子ども用の各画面を有すること。また資料検索機能と合わせ、本の場所を配架地図アニメーションで表示すること。
7	利用者用インターネット	図書館資料を補完するために、館内で利用者がインターネットを使って Web サイトを閲覧する。
8	Web 関連業務サイト	町の管理、町立図書館の蔵書検索や資料予約、県内図書館横断検索システム。地図や貴重書などのデジタルアーカイブを公開する。 インターネットを通じた資料検索や予約サービスの提供。また、図書館が選定した資料テーマ検索、お知らせ等の情報提供や予約確保メール。新着本案内メールが発信できること。
9	ＩＣタグ連携	持出し防止ゲート、セルフ貸出機など
10	学校分館機能	小中学校図書室の蔵書管理、生徒児童による貸出返却機能、クラス管理・学年新旧処理などの学校独自の各機能
11	支所分館機能	新富町役場新田支所で行う貸出・返却に関する機能

表２　図書システムの概要

第５節　システムの調達範囲

本システムの調達範囲については以下のとおりとする。

（１）本町図書館基礎数値

本システムのサービス対象は町立図書館と役場支所、町立学校６校である。そのサービスの対象となる各館における蔵書冊数・登録者数等の基礎数値は下記のとおり想定している。

項目	平成２８年度開館時	平成３１年度末(予測)
蔵書冊数	５万冊	７万冊
登録者数	3,000 人	7,500 人
貸出冊数	100,000 冊	150,000 冊
予約冊数	1,000 件	2,000 件

表３　新富町立図書館の収蔵冊数と５年後の予測

項目	平成２７年度当初 (平成 26 年度実績より)	平成 31 年度末(予測)
蔵書冊数	６万 5032 冊	８万冊
登録者数	1,504 人	1,500 人
貸出冊数	90,405 冊	110,000 冊
予約冊数	―	―

表４　学校図書館（６学校トータル）の収蔵冊数と５年後の予測

（2）要求する端末・周辺機器・ソフトウェア類

本システムにおける導入端末及び周辺機器数は「各機器設置予定ポイント一覧」（P11）及び「機器性能仕様一覧」（P12 からP18）により以下のハード・ソフトを設定すること。

	項目	用途	備考	数量
1	管理者端末	事務所用　システムの全体管理	ノート型	1台
2	事務所用端末	事務所用　蔵書登録用	ノート型	1台
3	カウンタ用端末	貸出やレファレンス応対用	デスクトップ型	4台
4	OPAC 端末（蔵書検索用）	蔵書検索用のタッチパネル端末	デスクトップ型	2台
5	インターネット開放端末	利用者用のネット検索用端末	デスクトップ型	4台
6	学校図書用端末	学校図書室用のシステム端末	デスクトップ型	7台
7	自動貸出機（レシートプリンタ含む）	IC 対応利用者用自動貸出	デスクトップ型	2台
8	レシートプリンタ	貸出時のラベル印刷機		4台
9	レーザープリンタ（A3）	カウンタ用のプリンタ		2台
10	レーザープリンタ（A4）	学校用のプリンタ		6台
11	ラベルプリンタ	利用者カード作成用プリンタ		1台
12	ICタグ検知ゲート装置	2通路モデルゲート。盗難防止		1台
13	無線一体型ハンディ	蔵書の点検用機器		2台
14	読書手帳器	利用者の貸し出し履歴印刷		2台
15	入退館感知サーモセンサー	利用者数の感知センサー		1台
16	ネットワーク・バックアップ機器類	システムをつなぐスイッチ類ほか		1式
17	卓上型ICリーダライタアンテナ	カウンタ用端末に設置。IC対応	-	3台

表5　ハードウェア一覧表

	項目	ソフト	数量
1	図書館システム	今回調達の業務用・利用者開放端末に対し、支障なく利用出来るライセンス数を提供すること(Tool-i 連携ｿﾌﾄﾗｲｾﾝｽも含む)	1式
2	OfficeHome&Bussiness2013	業務用端末にインストールすること。	1式
3	OfficePersonal2013	業務用、カウンタ用にインストールすること	12式
4	端末環境復元ソフト	利用者が操作する端末に対して、電源再起動によりパソコン環境を復元するソフトを導入すること（OPAC・インターネット）	5式
5	ホームページ作成ソフト	ホームページ作成が容易に作成・管理・メンテが可能なソフトを用意し、導入当初の構築も行うこと。	1式
6	セキュリティソフト	ウィルス対策ソフトを全端末にインストールすること。（館内14式＋学校7式）	21式

表6　ソフトウェア一覧表

（3）本町と事業者の負担区分

本町システムの対象業務に定める業務システムに必要なハードウェア、ソフトウェア及びその保守並びにこれらのシステム構築に必要な調査、設計、開発、テスト、データ移行、研修等の一連の業務についての本町と事業者の負担区分は以下のとおりとする。

	負担項目	本町	事業者
1	職員が使用する端末及び端末用OS、汎用業務ソフトウェア（MS－WORD、MS－Excel 等）		○
2	セキュリティソフトウェア		○
3	電源、空調、消火剤等	○	
4	設置場所及び研修に必要な場所	○	
5	開発、システムテスト等に必要な機器及びネットワーク		○
6	開発環境に必要な什器、備品類		○
7	端末及び機器への設定		○
8	ホームページ開設に係る機器設定及びコンテンツ作成		○

表7　本町と事業者の負担区分

第６節　導入業務と運用業務の事業期間

（１）導入業務の事業期間

導入業務の事業期間は契約締結日から平成２８年１月１５日までとする。

この期間において、パッケージの適合、開発、既存システムからのデータ移行、テスト等を行い、平成２８年２月１日からの本稼働に向けて本システムの構築を行うこと。

また、データ移行に係る休館日も考慮の上、構築スケジュールを作成すること。

学校図書館においては、平成２８年１月１日からシステム仮稼働できるようにシステムを構築すること。

（２）稼働時期について

平成２８年２月１日から本稼働が行えること。

新富町立図書館図書システムは、平成２８年２月１日にシステムを稼働するが、平成２８年１月１日から１月３１日までを仮稼働とする。仮稼働中は開館準備期間となるため、システム構築と開館準備を同時進行できるよう準備すること。

なお仮稼働中はテスト期間と位置づけ、導入業務の一環とし、運用業務の各種経費を含まないこととする。

（３）運用業務

運用業務は平成２８年２月１日から平成３３年１月３１日までとする。（５カ年間）

第３章　システム導入

本システムの導入にあたっては、以下に示す項目に従い、かつ本町の規模（蔵書数、職員数。所蔵館等）を十分考慮し構築を行うこと。

第１節　事業計画

事業者は契約締結時に事業計画書を提出すること。事業計画書は、本システムの整備に関する設計から開発、データ移行、テスト、研修及びマニュアル整備、運用までを対象とし、本町との十分な協議の上作成し提出すること。

第２節　設計

設計にあたり、事業者より業務分析手法、パッケージ適合手法等について仕様追加や変更等を最小限にするために、本町とのコミュニケーションを密に行い、現行業務の把握及び業務パッケージに対する理解を得ること。

第３節　開発

本システムの開発に関する要求事項を以下に示す。

（１）基本事項

開発にあたっては、バージョンアップ時に改修費用がかからないようにする。

（２）開発場所

本システム稼働までの期間は、テスト等の作業を実施するための開発場所については、事業者の負担とするが、運用テストやデータ移行等の本システム稼働直前の作業については新富町立図書館内を提供する。

開発、システム評価等に必要な機器、ネットワーク、什器等の設備については事業者が対応すること。

また、本稼働開始に伴う移設にかかる作業及び費用については事業者が負担すること。

また。開発用端末については事業者に委ねるが、業務端末を開発端末として利用することも認める。

（３）機器設置等

システムを構成する端末及び周辺機器等の機器については、稼働開始を迎える前にその機器設定を行うこと。

本システムに必要な機器の搬入・設置においては、場所、電源事情、入退室管理、搬入・搬出ルート等を考慮し、本町と綿密に協議の上、実施すること。

（４）構築 SE 体制

新館オープンと IC タグシステム開始、新 Web サービスの開始など、本町職員に経験の無い取り組み

や課題が生じることも想定されるため、本事業と同等の内容を有する事業を構築した経験のある SE 担当者を含めた体制を整えること。

第４節　ハードウェア仕様

（１）使用全体にかかる要件

各機器の機能・性能要件は、機器性能仕様一覧（Ｐ12 から 17）及び図書システム機能要求一覧（Ｐ18 から 30）に基づいて積算すること。

パソコンはアフターメンテナンスを考慮して、国産メーカー製品とし、ノーブランド機器は不可とし、最新モデルで見積すること。

また、ノートパソコン・デスクトップパソコン・ディスプレイは同一メーカー製とすることが望ましい。セキュリティ用機器、ネットワーク機器、部材等は見積における最適な数量とすること。

ハードウェアの機器及び構成については、本町の業務が円滑に行えるよう必要な要件を満たすものとし、業務端末やその他付帯する機器等の性能及び構成については、仕様書によること。

また、機器等の容量及び性能については、運用期間５年間中に増加すると予想される各データ量に対応でき、各端末の作業について任意の業務機能が同時かつ安定して動作でき、契約期間内にレスポンスが遅くならないようなスペックを考慮すること。なお、図書館内に設置する機器については、図書館の静音性を十分考慮すること。

端末及び周辺機器等についてはすべて新規で調達するものとして費用算出すること。

（２）ＩＣゲート装置設置･施工

図書館出入口には未貸出資料の持ち出し防止のためにＩＣゲートを設置する。

ゲート設置予定場所から貸出カウンターまでの間には電源ケーブルとＬＡＮケーブルの敷設を想定して配管を用意しているため、これを使用してシステムとの接続を行うこと。館内床構造も踏まえて据付施工を行うこと。

（３）ＩＣタグについて

新図書館設立に先立ち、ICタグ整備を順次進めている。採用しているICタグ情報を以下に示す。

①株式会社図書館流通センター製『13.56MHz帯／Icode-SLI xチップ』ICタグ

②タグ記録情報は2005年9月5日付け日本図書館協会“図書館共通識別コード（案）”をISO15693に準拠したデータ形式でエンコードしている。

③新システムは上記タグとの連携性・親和性・動作実績を十分に持っている必要がある。またIC関連機器に関しても同様に十分な実績を持ち、ICタグベンダー動作保証をしている機種とする。

（３）入退館感知サーモセンサー

本事業は新館建設であるため、利用者の入退館人数の把握を重視している。そのため図書館出入り口の天井に利用者の入退館を感知できるセンサーの設置をすること。感知した人数は日別･時間帯別で自動的に集計し、Excel 等に統計資料として出力できるような仕組みを構築すること。

（４）読書手帳用のラベル印刷機

利用者が既読した図書のデータをプリントし、利用者自らが用意するノート等に貼り付け、読書履歴がわかるような工夫を行うため、ラベル印刷機を設置すること。

第５節　利用者カード

新富町立図書館用の利用者カードを 5,000 枚用意すること。仕様は、薄型ペットカードでハーフラミネートができるものとする。

なお、新富町中央公民館図書室で、同様のバーコードを利用した運用を行っている。本事業で導入するシステムでは、既存の利用者カードの更新・変更を行うことなく、継続利用が可能であること。

第６節　ホームページ開設

図書館システム構築にあたり、町立図書館用ホームページを作成すること。

ホームページ及びコンテンツ等の作成は、本稼働までに行うこととし、その公開は職員自らが簡単な操作により行うことができるようにすること。

職員が、お知らせやレファレンス等の情報を更新する際には簡単な手順・操作で行えること。レファレンスについては、図書館システムと自動連携できること。

利用者のアクセス情報の収集をできること。また、可能であればコンテンツ毎に収拾できること。

また、ホームページ更新作業について操作等のマニュアルを用意すること。詳細な項目については別途職員と協議の上、決定すること。

第７節　ネットワーク構成及びネットワーク機器類

ネットワークに必要な配線必要箇所には、施設建設事業の中で空配管までを用意している。

本事業の受託事業者は、配管に適時配線を敷設すると共に、館内のモール加工、カバー設置の上でＬＡＮ配線を行うこと。館内ネットワークは、L3 スイッチを用いてセグメント分割管理を行うこと。

館外との接続のための、ベストエフォート 100 メガ相当の光回線、回線使用料・プロバイダ契約料（１つの固定 IP アドレスを含む）等は本町負担とする。上記以外のネットワーク回線等が必要な場合は事業者の負担で準備すること。

第８節　データ移行

（１）データ移行の考え方

データ移行は、本町の中央公民館図書室や学校図書館の既存データ規模を考慮し、その作業、チェックに十分な時間を確保し、また、本番に向けたリハーサルを複数回実施することとし、安全かつ確実な移行を実現すること。

①中央公民館図書室のシステムからの移行データ

中央公民館図書室で取り扱っている対象データ（全マスタデータ、書誌データ、利用者データ、貸出データ、予約データ、その他のデータ）は全て、本事業の図書館システムへ移行を行い、業務に支障をきたすことなく円滑に実施する予定である。なお新富町役場新田支所のデータは中央公民館図書室で管理しており冊数も少ない。（移行データの目安　叢書 20,000 冊、利用登録 2,000 人）

②学校図書室のシステムからの移行データ

学校図書室で取り扱っている対象データは書誌データを中心とし、利用者データや貸出データは新規で町職員が入力することを想定している。（移行データの目安　蔵書 60,000 冊）

（２）データ移行計画と中間ファイル形式

職員の負担を軽減するためのスケジューリングや確認作業の効率的な実施に留意すること。

また、データ移行については、既存システム事業者及び本事業受託事業者双方で定義する「データ移行中間ファイル形式」により移行するものとする。

既存システムから中間ファイル形式へのデータ移行は、町が既存システムから抽出して行うことを想定している。中間ファイル形式から新システムへのデータ入力にかかる費用は本事業受託事業者が負担するものとする。

（３）役割分担

中間ファイル形式から本システムへのデータ取り込みの作業及び費用については本事業受託事業者が負担する。また、本事業受託事業者は、データの抽出・移行について、データ破損防止のため、既存システム事業者と打ち合わせの上、慎重かつ速やかに作業を行うこととする。

第９節　テスト

システムの整備における各段階のテストは、その手法を事業計画書に明記すること。

それぞれのテスト工程は詳細な計画を立案の上で実施すること。またテスト実施後はすみやかに品質評価を行い、工程の完了判定の上で次の工程に着手すること。

第 10 節　研修及びマニュアル整備

（１）基本事項

本システムを操作する職員が、システム切替えに際して戸惑うことなく、職員業務の停滞を防止するための実効的な研修を計画し、実施すること。

また、本システムに関するマニュアルを、研修時に教科書として使用するとともに、システム稼働後の手引書として装備すること。

（２）研修方法。

職員研修は事前研修として行うこと。ただし、事前研修においては、マニュアル等による机上研修の他に、研修端末を使用した研修を実施すること。研修場所は町で用意するが研修に必要な機器・仮設ＬＡＮ・設定等は事業者が実施すること。

（３）マニュアル整備

本システムに関して、以下のマニュアルを作成すること。

①職員向けシステム操作マニュアル

システムの操作に関して、システムメニュー構成に従い整理し、通常の業務仕様に必要な全ての操作について記載すること。また、バージョンアップに伴うシステム改修に従い、マニュアルを更新すること。システム操作マニュアルは事業者が作成するものとする。

②ホームページ更新・操作マニュアル

ホームページの更新やその他業務に必要な操作に関して必要な全ての操作について記載を行うこと。また、バージョンアップやホームページ改修に従い。マニュアルを更新すること。

第 11 節　稼動支援

システム導入時には本稼動前に職員が自由に操作練習できる環境を用意すると共に、操作を問題なく習得できるよう、十分な操作研修・支援・稼動後の立会いを実施すること。

また町立図書館とは別に学校図書館向けにも操作研修や稼動支援を十分に行うこと。

第 12 節　本稼働の立会い

本稼働時には、各施設のポイント毎に１名以上の図書システムに精通した技術者を配置すること。

第４章　システム運用

第１節　基本事項

本仕様書の要件を満たす品質・性能等を維持するために必要なシステム及びサービスを継続して提供するために、システムの更新・バージョンアップ・プログラムのメンテナンス等を行い、正常な稼働を保証すること。運用時間は、原則として全開館日・開館時間を受付可能とし、休日対応が可能なこと。

日常のシステム運用については、基本的に自動運転とし、日次処理についても特別なオペレーションは不要とする。資料、利用者などの各データベースのバックアップもクラウドサービスの一環としてセンター側で対応されるものとする。

なおデータのバックアップは 3 世代分以上を保持し、障害が発生した際には 24 時間以内に図書システムが再稼働可能とすること。

第２節　稼働期間及び時間

システムの稼働期間に関しては、基本的に稼働休止日はないものとし、稼働時間に際しては原則 8:00～22:00 とする。ただし、館内整理日等の蔵書点検を考慮し、システム稼働期間内の範囲内で随時業務時間延長に対応できること。

なお、それぞれの館で運用時間が異なる。詳細については下記のとおり。

また、WebOPAC については 24 時間稼働が可能なこと。なお、メンテナンスや運用上停止する必要がある場合、別途図書館側と協議すること。

	施設名	開館時間	運用時間
1	新富町立図書館	9 時から 19 時あるいは 20 時	8 時 30 分から 22 時
2	新富町役場新田支所	8 時 30 分から 17 時 15 分	8 時 30 分から 17 時 15 分
3	町内学校図書室	8 時 30 分から 17 時 15 分	8 時 30 分から 22 時

第３節　セキュリティ管理

（1）データセンターにおける管理体制

図書システム及び蔵書検索システムを運用するデータセンターにおいて、サーバ管理、入退室管理、災害対策などには万全の備えをするものとし、以下の要件を満たすデータセンターを選定の上、必要な経費を見積に含めること。

①サーバ管理については、ハードトラブルの監視が盛り込まれていること。

②指紋認証や、ＩＤカード等許可された担当者のみ入室が出来る仕組みとし、防犯センサー、監視カメラ等が完備していること。

③災害対策では地震対策、停電対策、火災対策、漏水・浸水対策などが考慮されている設備であること。

①センター運営者は ISO27001、ISO9001、P マーク各資格を有していること。

②センターは自治体ハザードマップで浸水・活断層・津波の各危険エリア内に立地しないこと。

③万が一の災害時･停電の際には自家発電を 24 時間以上分の燃料備蓄をしていると共に、複数の石油元売り業者との緊急時供給特約を締結していること。石油元売り業者との緊急時供給特約を締結していること。

（2）データ通信のセキュリティ対策

図書システムを職員が使用する場合の通信は、個人情報を取扱うため、通信が傍受されない仕様にすること。または、通信を暗号化し万が一通信が傍受された場合に対して安全を確保すること。

（3）SSL 暗号化の導入

利用者が予約などの Web サービスを利用する際に使用する利用者番号・パスワード等のデータ通信については TLS1.0 を利用して暗号化すること。

（4）パスワードによるアクセス制限

業務端末からシステムを利用する際、パスワード認証を必要とする。またシステムにおいては ID ごとに操作できる機能・権限を設定可能とする。

利用者が Web 予約等のサービスを受ける場合にも、パスワードによる認証を実施する。

（5）ウィルス対策

サーバ及びクライアントにはウィルス対策ソフトを導入し、5 年分の更新ライセンスを含んだ見積をすること。

（6）個人情報漏洩対策

外部持出可能な媒体からの個人情報漏洩を防ぐ為に USB、光学ドライブ、PC カード、シリアル、パラレル、赤外線通信などの各ポートの使用を制限する機能を用意すること。ただし、USB、PC カードは機器ごとに有効/無効の設定を可能とし、業務上必要な機器を接続しつつ、セキュリティを低下させる恐れのあるデバイス等を無効にすることを可能とすること。

（7）個人情報アクセスログ

システムの個人情報領域へのアクセスについてはログ履歴を蓄積すること。またそのログについては万が一のトラブル発生時に迅速に検索･出力を行い、本町職員自身で容易に追跡を実施できる仕組みを用意すること。

（8）インターネット利用端末、オンラインデータベース端末について

不適切なインターネット利用を防止するためのフィルタリング機能と、OS 設定等を勝手に変更できないような制御、及び再起動による環境復元機能を施すこと。フィルタリングソフトの更新費用については 5 年分の更新ライセンスを含んだ見積をすること。

（9）Web 予約システムの情報漏洩対策について

Web 予約システムについては、情報漏洩や改ざんを防ぐために個人情報(氏名、電話、住所等）を保管しない、また暗号化をかけるなどのセキュリティ対策を行うこと。

年 2 回以上の Web サービスの脆弱性の評価を行い､改善事項については速やかに対策を講じること。また必要に応じ、第三者組織によるセキュリティ監査を行うことが可能なこと。

OS・ミドルウェアのセキュリティパッチを適宜適用し、セキュリティレベルを保つこと。

第４節　システム運用支援

（1）近隣（移動時間 90 分以内程度）に SE 拠点を置き、図書館システムに精通した SE による訪問対応と、運用、変更に際しての図書館からの相談、質問には全面的に支援できる体制であること。

（2）図書システム運用に必要なマニュアルを公共・学校それぞれに整えること。

（3）土日祝日・夜間なども含め連絡ルートを確立すること。また対応については、図書館と協議して早期復旧に努めること。

（4）毎年の蔵書点検時は初日と最終日に訪問サポート、年度統計出力等のイベント時にはその都度の問合せ対応を行うこと。

（5）１年目は新システム及び新住民サービスもあるため、2 か月に 1 度の定例会を実施すること。２年目以降は年４回程度の定例会を実施すること。なお定例会時には、依頼案件の対応状況報告やレベルアップの情報提供等を行うこととし、必ず主担当 SE が出席をすること。

（6）学校図書室の担当者は例年異動が多く発生している傾向がある。そのため操作の習熟度を維持するために毎年 4 月に 1 回の操作研修会を行うこと。

（7）その他、電話／メールによるＱＡ対応、図書館の運用条件変更に伴う区分コード追加作業は、相談も含め現地にて対応すること。

第５節　保守対応

システムが常に完全な機能を保つように、ハードウェア、ソフトウェア等の保守作業を行うこと。
円滑な保守を考慮し、各ハードウェア・システム等を全て一括窓口にて受付すること。

第６節　障害･故障対応

（１）障害時の連絡対応、問診
（２）障害原因の切り分け作業
（３）不良部位修理を行うと共に、必要に応じてソフトウェア(本件調達分)の回復を実施すること。
（４）機器障害発生時には技術者が訪問して、必要に応じた部品交換を実施すること。
（５）データセンター内に設置した図書館サーバには稼働状況を常時監視する仕組みを取り入れ、障害発生をいち早く察知して保守対応できる仕組みを用意すると共にメモリ障害・ディスク障害等の予兆監視を実施すること。図書館システムのパッチ提供、リビジョンアップの権利提供などのマイナーバージョンアップは随時行うものとし、技術提供サービス等、契約期間の保守サービスを実施すること。
（６）問合窓口を設置し、障害発生時に職員が滞りなく通報・作業指示を行える体制を取ること。
（７）保守対応は、原則として週５日以上の開館時間において受付可能とする。
（８）訪問修理の作業実施に際しては職員と充分な協議の上で対応すること。
（９）訪問修理の困難な製品については代替機等を用意し、センドバックの間に業務に支障が無いような体制を整えること。
(10) システム障害発生時は、職員と充分な協議の上、土日祝日を含め技術者が現地訪問し、復旧対応（修繕・立会）を行うものとする。
(11) サーバ障害時には、最大 24 時間以内に図書システムが再稼働可能とすること。
※その際のデータは前日のバックアップデータを復元する。
(12) 業務の新たな運用が必要な場合は、保守の範囲外として都度協議の上対応するものとする。

各機器設置予定ポイント一覧

		新富町立図書館	新富町役場新田支所	富田小学校	富田中学校	新田学園小学部	新田学園中学部	上新田小学校	上新田中学校	合計
1	管理用端末	1								1
2	事務所用端末	1								1
3	カウンター端末	3	1							4
4	ＯＰＡＣ端末	2								2
5	インターネット開放端末	4								4
6	学校用端末			2	1	1	1	1	1	7
7	自動貸出機	2								2
8	レシートプリンタ	3	1							4
9	プリンタ	2								2
10	学校用プリンタ			1	1	1	1	1	1	6
11	ラベルプリンタ	1								1
12	ＩＣゲート	1								1
13	無線一体型ハンディ	2								2
14	読書手帳用プリンタ	2								2
15	来館者カウンター	1								1
16	ネットワーク関連機器	1								1
17	カウンターＩＣ機器	3								3

※注意１　レシートプリンタは、「7.自動貸出機」にそれぞれ１台設置するよう仕様に組み入れいているので、実際の納入は６台になる。

※注意２　「６.学校用端末」は、富田小学校において利用者数が多いので、２台設置するようにしている。ただし「10.学校用プリンタ」は１台とする。

※注意３　「17.カウンターＩＣ機器」の設置先は、「２.事務所用端末」と、「３.カウンター端末」のうちの新富町立図書館分の合計４台とする。新富町役場新田支所にはカウンターＩＣ機器は設置しない。

※注意４　読書手帳用プリンタは「４.ＯＰＡＣ端末」に接続する予定。

機器性能仕様一覧

１．管理用端末（Ａ４タイプ　ノートブックパソコン）				
No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＣＰＵ／性能	Intel Core TMi5 以上	1	式
②	メモリ	４ＧＢ以上		
③	内蔵ディスク容量	500ＧＢ以上		
④	外部記憶装置	光学ドライブ固定式スーパーマルチ（内蔵）		
⑤	通信機能	100BASE-T／100BASE-TX／100BASE-T 準拠　無線 LAN&BIuetooth		
⑥	ＯＳ（オペレーションシステム）	Win8.1Pro(64bit)正規版		
⑦	入力装置（キーボード）	JIS 配列準拠（アイソレーション、テンキー付）		
⑧	入力装置（マウス）	ＵＳＢ光学式マウス		
⑨	ディスプレイ	15.6 型ワイドＨＤ（1366×768 ドット）以上		
⑩	ソフトウェア	Microsoft Office Home&Business 2013		
⑪	バーコードタッチリーダ	USB インターフェイス　赤色 LED 方式　読み取り可能コード（JAN-8、EAN-8/JAN-13、EAN-13、UPC-A、UPC-E／UPC/EAN アドオン付（2 桁または 5 桁）／Interleaved 2 of 5、Standard 2 of 5／NW-7（CODABAR）／ CODE39・CODE93・CODE128・EAN-128（GS1-128）／ GS1 DataBar（RSS）） 週５日以上 9:00～17:00 受付可能な保守を行うこと。		
⑫	リカバリーディスク	リカバリーデータディスク＋ドライバーズディスク＋WinDVD ディスク		
⑬	⑪以外の保守	５年間　週５日以上の 8:30～19:00 の当日出張修理の保守を行うこと。		
⑭	備考	国内メーカー製品であること。USB、DVD 等の外部媒体への書き出しを制御するソフトウェアを添付すること。エンドポイントウィルス対策ソフトウェアを全機器に準備すること。		

２．事務所用端末（Ａ４タイプ　ノートブックパソコン）				
No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＣＰＵ／性能	Intel Core TMi5 以上	1	式
②	メモリ	４ＧＢ以上		
③	内蔵ディスク容量	500ＧＢ以上		
④	外部記憶装置	光学ドライブ固定式スーパーマルチ（内蔵）		
⑤	通信機能	100BASE-T／100BASE-TX／100BASE-T 準拠　無線 LAN&BIuetooth		
⑥	ＯＳ（オペレーションシステム）	Win8.1Pro(64bit)正規版		
⑦	入力装置（キーボード）	JIS 配列準拠（アイソレーション、テンキー付）		
⑧	入力装置（マウス）	ＵＳＢ光学式マウス		
⑨	ディスプレイ	15.6 型ワイドＨＤ（1366×768 ドット）以上		
⑩	ソフトウェア	Microsoft Office Personal2013		
⑪	バーコードタッチリーダ	USB インターフェイス　赤色 LED 方式　読み取り可能コード（JAN-8、EAN-8/JAN-13、EAN-13、UPC-A、UPC-E／UPC/EAN アドオン付（2 桁または 5 桁）／Interleaved 2 of 5、Standard 2 of 5／NW-7（CODABAR）／ CODE39・CODE93・CODE128・EAN-128（GS1-128）／ GS1 DataBar（RSS）） 週５日以上 9:00～17:00 受付可能な保守を行うこと。		
⑫	リカバリーディスク	リカバリーデータディスク＋ドライバーズディスク＋WinDVD ディスク		
⑬	⑪以外の保守	５年間　週５日以上の 8:30～19:00 の当日出張修理の保守を行うこと。		
⑭	備考	国内メーカー製品であること。USB、DVD 等の外部媒体への書き出しを制御するソフトウェアを添付すること。エンドポイントウィルス対策ソフトウェアを全機器に準備すること。		

３．カウンター端末（一体型デスクトップ　ＩＣ対応）　※IC 機器は 19 番

No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＣＰＵ／性能	Intel Core TMi5 以上	4	式
②	メモリ	４ＧＢ以上		
③	内蔵ディスク容量	500ＧＢ以上		
④	外部記憶装置	ＤＶＤ－ＲＯＭ（薄型内蔵タイプ）		
⑤	通信機能	100BASE-T／100BASE-TX／100BASE-T 準拠、シリアルポート		
⑥	ＯＳ（オペレーションシステム）	Win8.1Pro(64bit)正規版		
⑦	入力装置（キーボード）	メーカー純正 JIS 日本語キーボード		
⑧	入力装置（マウス）	ＵＳＢ光学式マウス		
⑨	ディスプレイ	20 型ワイド液晶		
⑩	ソフトウェア	Microsoft Office Personal2013		
⑪	バーコードタッチリーダ	USB インターフェイス　赤色 LED 方式　読み取り可能コード（JAN-8、EAN-8/JAN-13、EAN-13、UPC-A、UPC-E／UPC/EAN アドオン付（2 桁または 5 桁）／Interleaved 2 of 5、Standard 2 of 5／NW-7（CODABAR）／ CODE39・CODE93・CODE128・EAN-128（GS1-128）／ GS1 DataBar（RSS）） 週５日以上 9:00～17:00 受付可能な保守を行うこと。		
⑫	リカバリーディスク	リカバリーデータディスク＋ドライバーズディスク＋WinDVD ディスク		
⑬	⑪以外の保守	５年間　週５日以上の 8:30～19:00 の当日出張修理の保守を行うこと。		
⑭	備考	国内メーカー製品であること。USB、DVD 等の外部媒体への書き出しを制御するソフトウェアを添付すること。エンドポイントウィルス対策ソフトウェアを全機器に準備すること。 ※ＩＣ関連機器は「19. ○○○○」に記載		

４．ＯＰＡＣ端末（蔵書検索端末ＯＰＡＣ・デスクトップ型）

No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＣＰＵ／性能	Intel Core TMi3 以上	2	式
②	メモリ	４ＧＢ以上		
③	内蔵ディスク容量	500ＧＢ以上		
④	外部記憶装置	ＤＶＤ－ＲＯＭドライブ		
⑤	通信機能	100BASE-T／100BASE-TX／100BASE-T 準拠		
⑥	ＯＳ（オペレーションシステム）	Win8.1Pro(64bit)正規版		
⑦	入力装置（キーボード）	PS/2 109 キーボード		
⑧	入力装置（マウス）	USB 光センサーマウス		
⑨	ディスプレイ	１７型タッチパネルＴＦＴ 週５日以上 9:00～17:00 受付可能な保守を行うこと。		
⑩	リカバリーディスク	再セットアップＤＶＤ（WIn8.1Pro(64bit)）		
⑪	⑪以外の保守	５年間　週５日以上の 8:30～19:00 の当日出張修理の保守を行うこと。		
⑫	備考	国内メーカー製品であること。USB、DVD 等の外部媒体への書き出しを制御するソフトウェアを添付すること。エンドポイントウィルス対策ソフトウェアを全機器に準備すること。		

５．インターネット開放端末（利用者端末　デスクトップ型）

No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＣＰＵ／性能	Intel Core TMi3 以上	3	式
②	メモリ	４ＧＢ以上		
③	内蔵ディスク容量	500ＧＢ以上		
④	外部記憶装置	ＤＶＤ－ＲＯＭドライブユニット		
⑤	通信機能	100BASE-T／100BASE-TX／100BASE-T 準拠　無線 LAN&BIuetooth		
⑥	ＯＳ（オペレーションシステム）	Win8.1Pro(64bit)正規版		
⑦	入力装置（キーボード）	メーカー純正 JIS 日本語キーボード		
⑧	入力装置（マウス）	ＵＳＢ光学式マウス		
⑨	ディスプレイ	カラー液晶ディスプレイ 17		
⑫	リカバリーディスク	リカバリーデータディスク＋ドライバーズディスク＋WinDVD ディスク		
⑬	⑪以外の保守	５年間　週５日以上の 8:30～19:00 の当日出張修理の保守を行うこと。		
⑭	備考	国内メーカー製品であること。USB、DVD 等の外部媒体への書き出しを制御するソフトウェアを添付すること。エンドポイントウィルス対策ソフトウェアを全機器に準備すること。		

６．学校図書館用端末（学校図書館用　デスクトップ型）

No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＣＰＵ／性能	Intel Core TMi3 以上	7	式
②	メモリ	４ＧＢ以上		
③	内蔵ディスク容量	500ＧＢ以上		
④	外部記憶装置	ＤＶＤ－ＲＯＭドライブユニット		
⑤	通信機能	100BASE-T／100BASE-TX／100BASE-T 準拠		
⑥	ＯＳ（オペレーションシステム）	Win8.1Pro(64bit)正規版		
⑦	入力装置（キーボード）	メーカー純正 JIS 日本語キーボード		
⑧	入力装置（マウス）	ＵＳＢ光学式マウス		
⑨	ディスプレイ	カラー液晶ディスプレイ 17		
⑩	リカバリーディスク	リカバリーデータディスク＋ドライバーディスク＋WinDVD ディスク		
⑪	ソフトウェア	MicrosoftofficePersonal 2013		
⑫	バーコードタッチリーダ	USB インターフェイス　赤色 LED 方式　読み取り可能コード（JAN-8、EAN-8/JAN-13、EAN-13、UPC-A、UPC-E／UPC/EAN アドオン付（2 桁または 5 桁）／Interleaved 2 of 5、Standard 2 of 5／NW-7（CODABAR）／ CODE39・CODE93・CODE128・EAN-128（GS1-128）／ GS1 DataBar（RSS））　週５日以上 9:00～17:00 受付可能な保守を行うこと。		
⑬	保守	週５日以上　9:00-17:00 の当日出張修理。５年間の週５日		
⑭	ウィルス対策	ウィルス対策ソフト（１台　５年分）		

７．自動貸出機端末（一体型デスクトップ、ＩＣ対応）

No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＣＰＵ／性能	Intel Core TMi5 以上	1	式
②	メモリ	４ＧＢ以上		
③	内蔵ディスク容量	500ＧＢ以上		
④	外部記憶装置	ＤＶＤ－ＲＯＭドライブユニット		
⑤	通信機能	100BASE-T／100BASE-TX／100BASE-T 準拠		
⑥	ＯＳ（オペレーションシステム）	Win8.1Pro(64bit)正規版		
⑦	入力装置（キーボード）	メーカー純正 JIS 日本語キーボード		
⑧	入力装置（マウス）	ＵＳＢ光学式マウス		
⑨	ディスプレイ	17 型液晶 LCD デスクトップモニター 週５日以上 9:00～17:00 受付可能な保守を行うこと。		
⑪	バーコードタッチリーダ	USB インターフェイス　赤色 LED 方式　読み取り可能コード（JAN-8、EAN-8/JAN-13、EAN-13、UPC-A、UPC-E／UPC/EAN アドオン付（2 桁または 5 桁）／Interleaved 2 of 5、Standard 2 of 5／NW-7（CODABAR）／ CODE39・CODE93・CODE128・EAN-128（GS1-128）／ GS1 DataBar（RSS）） 週５日以上 9:00～17:00 受付可能な保守を行うこと。		
⑫	リカバリーディスク	リカバリーデータディスク＋ドライバーズディスク＋WinDVD ディスク		
	IC 用アンテナ	４Ｗアンテナ Ａ４版（リーダライタ含）　動作表示ＬＥＤ、電源ジャック／RS232C 接続用コネクタ／アンテナコネクタ RS-232C、本体入力電圧：DC＋)V±10%、本体消費電流：375mA、送信停止時の消費電流：140mA、本体消費電力：最大約 4.3W、AC アダプタ入力：AC100V(50HZ/60HZ)AC アダプタ出力：DC＋)V、129.5(W)×180(D)×40(H)mm※突起物は除く。ＣＤ－ＲＯＭ「取扱説明書アプリケーション」１枚、ＡＣアダプタ１台、RS232C ケーブル（クロス）１本、ＩＣリーダライタが動作するソフトを必要ライセンス分用意すること。 週５日以上 9:00～17:00 受付対応ができる保守を行うこと。		
	レシートプリンタ	32 ビット MPU、最大 300mm/秒の超高速印刷、カッター寿命　200 万カット（レシート紙）、 ヘッド寿命：150km、MCBF：7,000 万行、用紙幅は 58mm、60mm、80mm、83mm に対応、 USB ケーブル、USB2.0 のセルフパワード 2 ポートハブ同等機能、国内メーカー製品であること。　　週５日以上 9:00～17:00 受付対応ができる保守を行うこと。		
⑬	ＵＳＢケーブル	ＵＳＢ２．０対応ケーブル施工時に		
⑭	備考	国内メーカー製品であること。USB、DVD 等の外部媒体への書き出しを制御するソフトウェアを添付すること。エンドポイントウィルス対策ソフトウェアを全機器に準備すること。		

８．レシートプリンタ				
No.	項目	仕様	数量	単位
①	本体	32 ビット MPU、最大 300mm/秒の超高速印刷、カッター寿命　200 万カット（レシート紙）、ヘッド寿命：150km、MCBF：7,000 万行、用紙幅は 58mm、60mm、80mm、83mm に対応、USB ケーブル、USB2.0 のセルフパワード 2 ポートハブ同等機能、保守の関係で国内メーカー製品であること。週５日以上 8:30～17:00 受付対応の保守を行うこと。	4	式
②	ＵＳＢケーブル	カウンター端末とレシートプリンタを接続するケーブル。USB2.0 対応		
③	感熱ロール紙	サーマルロール紙（３巻入）		

９．プリンタ装置				
No.	項目	仕様	数量	単位
①	方式	電子写真プロセス	2	式
②	印刷速度	Ａ４片面　３８枚／分以上		
③	対応用紙サイズ	Ａ３，Ｂ４，Ａ４，Ｂ５、Ａ５、レター、リーガル、ハガキ		
④	給紙数	８００枚（拡張拾紙ユニット含む）		
⑤	インターフェイス	ＩＥＥＥ1284 準拠双方向パラレルインターフェイス／LAN インターフェイス（1000BASE-T）／USB2.0		
⑥	保守	週５日以上　9:00～17:00 受付対応		
⑦	備考	国内メーカー製品であること。		

10．学校用ページプリンタ				
No.	項目	仕様	数量	単位
①	方式	電子写真プロセス	6	式
②	印刷速度	Ａ４片面　２８枚／分以上		
③	対応用紙サイズ	Ａ３，Ｂ４，Ａ４，Ｂ５、Ａ５、レター、リーガル、ハガキ		
④	給紙数	２５０枚（拡張拾紙ユニット含む）		
⑤	インターフェイス	ＩＥＥＥ1284 準拠双方向パラレルインターフェイス／LAN インターフェイス（1000BASE-T）／USB2.0		
⑥	保守	週５日以上　9:00～17:00 受付対応		
⑦	備考	国内メーカー製品であること。		

11．ラベルプリンタ				
No.	項目	仕様	数量	単位
①	印刷方式	熱転写方式	1	式
②	印字解像度	360dpi×180ｄpi 以上		
③	印字速度	20mm／秒以上		
④	インターフェース	USB2.0		
⑤	電源	ＡＣアダプター、電源コード、入力：AC100V		
⑥	対応ＯＳ	WIndowsVISTA,Windows7,Windows8 以上		
⑦	カッター	搭載カッター：オートカッター（フルカッター／ハーフカッター）　寿命：フル３万カット以上、ハーフ２万カット以上		
⑧	ラベル	テープ 12mm×２本		

12．IC ゲート（２通路）				
No.	項目	仕様	数量	単位
①	適合規格	欧州ＲｏＨＳ指令、国内電波法（ＡＲＩＢ　ＳＴD0Ｔ８２）	1	式
②	対応通路数	２通路		
③	周波数／送信出力	13.56ＭＨＺ／最大 5.0W±10%		
④	交信距離／変調度	ゲート間隔最大約１ｍ（使用タグ、設置環境により異なる）／10%		
⑤	データ転送速度	本体⇒IC タグ　1/4 設定時　26.48kbps、1/256 設定時　1.65kbps　　ＩＣタグ⇒本体　26.69kbps		
⑥	アンチコリジョン	対応		
⑦	対応タグ	Tag-itHF-4、my-d、IcodeSLI、IcodeSLX（ISO/IEC14693、ISO/IEC18000-3（MODEL1）対応）		
⑧	ホスト I/F	RS-232C、TCP/IP		
⑨	動作温度・動作湿度	0～40℃／30～80%RH（結露ないこと）		
⑩	電源	AC100V/(50HZ/60HZ)、本体入力電圧：DC＋16V		
⑪	材質	アンテナパネル：アクリル樹脂、ＢＯＸカバー：アクリル変性塩ビ樹脂		
⑫	保守	週５日以上、9:00～17:00 受付対応　保守対応は九州内に拠点を有する。		

13. 無線一体型ハンディ

No.	項目	仕様	数量	単位
①	適合規格	電波法　（RFID）規格番号：ARIB STD-T82　標準規格名：誘導式読み書き通信設備　（Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ）ＳＭＫ社製　BT301C 同等以上を使用（ＲｏＨＳ指定）欧州ＲｏＨＳ指令（2002/95/EC）対応	1	式
②	ＲＦ仕様	（送信周波数）13.56ＭＨＺ±50ppm(Ta＝25℃)（アンテナ共振周波数）13.56ＭＨＺ±40ＬＨＺ（Ｔａ＝25℃、自由空間時）　（送信出力）500ｍＷ±20%（エアインターフェース規格）ISO/IEC 15693、ISO/IEC18000-3(Mode1)対応　（対応タグ）ISO/IEC 15693、ISO/IEC18000-3(Mode1）準拠　（データ転送速度）本体⇒IC タグ　1/4 設定時：26.48kbps 以上,1/256 設定時：1.65kbps　IC タグ⇒本体 26.69kbps　（変調）本体⇒IC タグ：ASK 10%／ASK 100% IC タグ⇒本体：FSK　（交信距離）最大 18 cm（参考）　（アンチコリジョン）対応		
③	制御仕様	USB2.0/1.1(仮想 COM ポート)　Bluetooth 2.0 +EDR（IEEE 802.15.1）仮想 COM ポート　実装		
④	電源特性	【電源】本体入力電圧、バッテリー(※10)、DC+5V ±5%、(AC アダプタ接続時：単三（AA）型充電池×3、DC ＋3.6V（1.2V×3)、本体消費電流：最大約 730 mA、送信停止時の消費電流：最大約 200 Ma、本体消費電力：最大約 3 W 【稼働時間】連続稼働時間：3 時間 30 分(送信出力 ON、Bluetooth 通信)以上　稼働時間　：6 時間以上（送信出力 ON/OFF 50 対 50 の時、Bluetooth 通信）		
⑤	環境特性	【動作温度】0～40℃（本体のみの保存温度）　【保存湿度】30～85%RH(結露なきこと)		
⑥	保守	週５日以上、9:00～17:00 受付対応　保守対応は九州内に拠点を有すること。		

14. 読書手帳（印字プリンタ）

No.	項目	仕様	数量	単位
①	印刷方式	感熱方式	2	式
②	印刷ヘッド密度	８ドット／mm　（200ｄｐｉ以上）		
③	印刷速度	80mm／秒以上		
④	給紙方式	ロール紙		
⑤	ＵＳＢケーブル	ＯＰＡＣ端末とシール印字プリンタを接続するＵＳＢケーブル 2.0 方式		
⑥	メモラベル	１巻あたり幅 70～80ｍｍ×40m 以上を９巻以上		

15. 来客カウンターシステム

No.	項目	仕様	数量	単位
①	規格	出入口に設置したセンサーで、来館される利用者様の人数を自動的に計測するシステム ・IP 型センサーのため集計機が不要 ・電源供給は POE 対応 ・LinuxOS 搭載によるファームウェアアップデイトによる機能アップ対応 ・Estate Manager との連携によるリモートメンテナンスのサービス拡充 ・カメラ付きセンサー、カメラ無しセンサーの選択が可能（保守向け）（最大８台） ・センサー技術はサーモカメラを使用 ・Master-Slave 接続による IP アドレスのアサインの最少化が可能 ・集計機能が日・時間帯別・曜日別に対応できること。 設置位置は天井部	1	式

16. ネットワーク機器類・バックアップ機器類

No.	項目	仕様	数量	単位
①	ルータ	【基本インターフェース】10/100/1000BASE-T,-TX　10 ポート以上 【サポートプロトコル】IPv4（RIP,RIPv2,OSPFv2,BGP4 ほか） IPv6（RIPng,OSPFv3 ほか） 【マルチキャスト】IGMPv2,PIM-SM ほか 【セキュリティ】telneto(サーバ／クライアント) ファイアーウォール（IP フィルタリング）、盗難防止	1	式
②	ＬＡＮスイッチ	【基本ｲﾝﾀﾌｪｰｽ】10/100/1000BASE-T ,TX　24 ポート以上 【ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ】ｽｲｯﾁ容量（bps）：50G 以上　ｱﾄﾞﾚｽ登録数：16,000 以上 【ｲﾝﾀﾌｪｰｽ仕様】ｵｰﾄﾈｺﾞｼｴｰｼｮﾝ、速度固定 【VLAN 機能】VLAN ｻﾎﾟｰﾄ、VLAN 数：4,094 以上 【ﾈｯﾄﾜｰｸ認証】MAC ｱﾄﾞﾚｽ認証、IEEE802、1X 認証、Web 認証 【ﾚｲﾔｰ 2 冗長機能】【ﾙｰﾌﾟ検出機能】【L3 機能】	1	式
③	スイッチングＨＵＢ	【基本ｲﾝﾀﾌｪｰｽ】10/100/1000BASE-T,-TX　８ポート以上 【ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ】・ｽｲｯﾁ容量：16G 以上 ・最大ﾊﾟｹｯﾄ転送能力（PPS）1,190 万以上 ・MAC ｱﾄﾞﾚｽ登録数：4,000 以上 【ｲﾝﾀﾌｪｰｽ仕様】ｵｰﾄﾈｺﾞｼｴｰｼｮﾝ、速度固定	4	式
④	無線ＬＡＮアクセスポイント	蔵書点検の際に使用する無線ＬＡＮアクセスポイントを設置し、必要に応じて外付けアンテナを用意すること。	1	式
⑤	ネットワーク対応ＨＤＤ	データバックアップのためにＲＡＩＤ機能搭載ネットワークに対応したＨＤＤを用意すること。３ＴＢ以上。	1	式

17. カウンター端末用ＩＣ機器

No.	項目	仕様	数量	単位
①	ＩＣ用アンテナ類	１Ｗアンテナ Ａ４版（リーダライタ含）　動作表示ＬＥＤ、電源ジャック／RS232C 接続用コネクタ／アンテナコネクタ RS-232C、本体入力電圧：DC＋)V±10%、本体消費電流：375mA、送信停止時の消費電流：140mA、本体消費電力：最大約 4.3W、AC アダプタ入力：AC100V(50HZ/60HZ)AC アダプタ出力：DC＋)V、129.5(W)×180(D)×40(H)mm※突起物は除く。ＣＤ－ＲＯＭ「取扱説明書アプリケーション」１枚、ＡＣアダプタ１台、RS232C ケーブル（クロス）１本、ＩＣリーダライタが動作するソフトを必要ライセンス分用意すること。 週５日以上 9:00～17:00 受付対応ができる保守を行うこと。	4	式

図書システム機能要求一覧

１．基本仕様について	
項目	内容
(1)	システムは SaaS 方式であること。
(2)	小中学校とデータベースを一体化して運用できるシステムであること。
(3)	多言語（ＵＴＦ－８）を扱えるシステムであること。
(4)	処理選択・コード値選択等がマウス及びファンクションキーで操作できること。キーボード操作も可能で各入力項目間の移動もＴＡＢキー、矢印キーで可能であること。(矢印キーは上下矢印による移動も可能であること。)
(5)	入力項目のカーソル位置が一目で分かるように色等による強調表示ができること。
(6)	日付項目はカレンダーからの入力ができること。
(7)	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。プルダウンに表示される順番は入れ替えができること。
(8)	各種確認画面での Yes／No 選択を、バーコード入力でできること。
(9)	各関連業務内の処理画面（窓口業務内の貸出、返却等）の個々の展開はメニュー画面に戻らなくてもできること。
(10)	複数ウィンドウ処理ができること。
(11)	１画面内でタブ切替えにより複数の情報を表示できること。(例：貸出画面で貸出状況、予約状況、利用者通知が切替え表示可能)。また、各タブに件数を表示できること。
(12)	停電、瞬電時のバックアップ機能があること。(無停電電源装置等)
(13)	図書システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能であること。クライアント毎の入れ替えは不要であること。
(14)	図書システムの各業務はインターネットエクスプローラ（IE6 以降）上で動作可能であること。
(15)	図書館業務メニューから、他関連 Web サイト（県立図書館等）を表示できること。また、Web サイトのリンクは任意に設定できること。
(16)	図書館業務メニューから各種 OA ソフト（Excel 等）を直接起動できること。また、起動する OA ソフトは任意に設定可能であること。
(17)	職員向けの「おしらせ」表示ができること。「おしらせ」は任意、かつ、複数の設定、表示が可能であること。
(18)	ユーザ ID／パスワードによるセキュリティー管理ができること。また、ユーザーID 毎に業務メニューの設定ができること。
２．貸出機能	
項目	内容
(1)	カウンターにおいて、利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出、団体貸出、相互貸借、館内閲覧に対応できること。
(2)	画面の背景色を変更できること。
(3)	バーコードリーダの走査により、「貸出確定」「貸出画面／返却画面切替」ができること。
(4)	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行できること。
(5)	館毎かつ利用者資格毎に貸出規制（貸出日数、延滞日数、督促警告回数、貸出冊数、合計貸出冊数）設定ができること。さらに、貸出日数、延期日数、貸出冊数は資料種別毎にも設定できること。主な貸出規制毎の現在貸出数が表示できること）
(6)	延滞利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。(確認せずに貸出させないこともできること。)
(7)	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。(確認せず貸出させないこともできること。)
(8)	館毎かつ利用者資格毎に予約規則（予約有効日数、合計予約件数）設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内 OPAC・WebOPAC 毎に設定できること。
(9)	利用者に対する日本語コメント通知ができること。(忘れ物、落し物、その他の案内等)。コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は１利用者につき無制限であること。また、１回表示後、自動消去されるコメントも利用できること。通知コメントが登録された利用者カードを走査した場合、優先的に通知コメントの一覧が表示されること。
(10)	資料についての日本語コメント通知ができること。(付録あり、汚れありなど)。コメントは１資料に複数件保有できること。
(11)	プライバシー保護のため、書名の表示・非表示を予め設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
(12)	プライバシー保護のため、利用者氏名、督促日、督促回数、仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
(13)	未登録の利用者や資料でも登録することなく、すぐに貸出できること。後から登録し貸出情報と紐付できること。
(14)	期限切れ・貸出冊数・督促利用者・予約有利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
(15)	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・持禁資料・仮登録資料・他館資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
(16)	各種チェックがかかった時、条件により、操作員の判断で続行するか中止するかを選択できること。
(17)	相互貸借を貸し出す際、利用者の返却予定日と相互貸借の返却期限日を比較し、返還期限日を超過する場合は貸出を行うかどうか判断できること。(確認せず貸出させないこともできること。)
(18)	貸出画面上で、利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること。(10 件以上／画面)
(19)	貸出中（状況）一覧画面で資料状態（「予約」や「延滞」等）の色分け表示ができること。また、表示項目と文字数の変更ができること。
(20)	貸出中の資料を任意に延期できること。ただし、延期回数が貸出規則の回数を超過したり予約資料の時は自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知し、延期の可否を判断できること。延期時に当初の貸出を変更せず保持すること。また、延期資料を貸出冊数にカウントすることもできること。
(21)	貸出延期処理時、貸出統計にカウントする／しないが設定で選択できること。

(22)	継続貸出処理時、回数をカウントして継続貸出処理を制限する／しないが設定で選択できること。
(23)	休館日設定により、返却予定美をカレンダ管理（休館日を避ける）し、また貸出画面での随時変更もできること。
(24)	貸出を行うと、利用者氏名、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待人数が記入された貸出上表が印刷され、利用者に渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメント管理（休館日を避ける）し、また貸出画面での随時変更もできること。
(25)	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。
(26)	複数の課題図書等の特定資料に予約をしていても、そのうち１冊貸出すと他の特定の資料も取消すことができること。
(27)	その日１日の館毎の貸出冊数、貸出人数を画面に表示できること。(概数の表示ができること)
(28)	貸出資料一覧表示時、資料識別子（図書、雑誌、ＡＶ等）表示され、何を何点借りているか表示できること。
(29)	未返却資料を貸出すと、今までの貸出利用者が確認でき、同時にその自動返却処理が行われること。
(30)	貸出処理完了前であれば、今貸出した資料の取消ができること。また、取消し時は統計データに反映されないこと。
(31)	貸出画面から予約の取消ができること。
(32)	貸出画面から紛失処理ができ、督促の対象から外すことができること。
(33)	貸出画面から、紛失等により弁償処理が行え、紛失届の印刷ができること。
(34)	返却処理漏れなどによりシステム上は貸出中（未返却資料）扱いだが、利用者からは返却済みとの申し出があった資料について、一時的に仮返却資料として貸出中資料から除外できること。また、督促対象あらも除外できること。
(35)	貸出画面から、利用者の仮返却管理中の資料明細を確認できること。
(36)	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除して貸し出すこともできること。
(37)	予約していた資料を貸出すと、予約データは消去されること。また、家族が予約した資料を貸出しても、予約データの消去ができること。
(38)	貸出状況一覧で、貸出処理館分の資料のみ表示と全館分の資料の表示ができること。
(39)	貸出状況一覧で、資料の最終返却者が確認できること。
(40)	予約資料一覧からレシート印刷ができること。
(41)	予約レシートに予約メモが印刷できること。
(42)	予約資料一覧で、予約受取館が確認できること。確保資料は確保館が確認できること。
(43)	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報や予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
(44)	貸出完了せずに離席した時、一定時間経過後、貸出完了と利用者情報の画面消去が自動でできること。
(45)	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(46)	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
３．返却	
項目	内容
(1)	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。
(2)	画面の背景力を変更できること。
(3)	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行できること。
(4)	書名の表示・非表示を予め設定できること。(プライバシー保護のため)。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
(5)	プライバシー保護のため、利用者氏名、督促日、督促回数、仮返却冊数の表示・非表示を予め設置できること。また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
(6)	返却画面から、利用者の仮返却管理の中資料明細を確認できること。
(7)	利用者に対する日本語コメント通知ができること。(忘れ物、落し物、その他の案内等)。コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は１利用者につき無制限であること。また、１回表示したら、自動消去されるコメントも利用できること。通知コメントが登録された利用者カードを走査した場合、優先的に通知コメントの一覧が表示されること。
(8)	資料についての日本語コメント通知ができること。(付録あり、汚れありなど)。コメントは１資料に複数件保有できること。
(9)	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・仮登録資料・未貸出・団体利用者貸出資料・ＢＭ貸出資料・相互貸借資料等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
(10)	無効（不明・紛失）となっている資料の貸出を行うと、自動的に無効を解除することもできること。
(11)	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除することもできること。
(12)	新刊コーナーの資料のバーコードを走査した時、自動で本来の配架場所に変更できること。
(13)	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。
(14)	返却資料のバーコード走査後、貸出画面への展開は次に貸出を行う利用者カードを走査することにより遷移できること。また、バーコードリーダだけで、「貸出⇔返却画面切替え」「貸出・返却確定」ができること。
(15)	予約されていた資料が返却されると、予約対象利用者の情報を自動的に印刷できること。(印刷可否の設定ができること)。プリンタはレシートプリンタにも対応できること。
(16)	予約レシートに予約メモが印刷できること。
(17)	希望者には返却証明レシートの印刷ができること。
(18)	Ａ館で予約してＢ館で借りた本をＣ館で返却しても管理・識別できること。
(19)	ブックポストへの大量の返却本を連続で返却する画面を用意していること。
(20)	用途に合わせて下記３種類の返却モードが用意されていること。処理場面に応じてワンタッチでモード切替が可能なこと。 ・通常返却（開館中利用者と対面し返却する場合のモードで未返却資料をタブ切替ですぐに表示できること。 ・ポスト返却（ブックポストへの大量返却時等、返却利用者チェックを行わず連続で返却が行え、返却資料が一覧画面に蓄積できること） ・履歴参照返却（通常返却の機能に加え、ポスト返却のように返却資料が一覧画面に蓄積できること）
(21)	返却画面で貸出延期ができること。
(22)	貸出延期処理時、貸出数をカウントする／しないが設定できること。

(23)	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。
(24)	基本的にプライバシー保護のため返却完了時、貸出データは消去されること。ただし、設定によって当日の返却履歴を保存し、返却完了後でも管理上返却した資料を誰が借りていたか確認することもできること。
(25)	貸出資料一覧表示時、資料識別子（図書、雑誌、AV 等）が表示され、何を何点借りているかの識別ができること。
(26)	その日１日の館毎の返却冊数、返却人数を画面に表示できること。(概数を表示ができること)
(27)	本籍館への配送、予約資料の配送管理ができること。また OPAC でも、本籍配送中の場合は、資料詳細画面の所蔵状況で配送中であることを示す表示を行うこと。
(28)	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
(29)	返却画面表示のまま離席した時、一定時間経過後利用者状況の画面消去が自動でできること。
(30)	返却状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(31)	貸出状況一覧で表示される全て項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(32)	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
４．利用者検索	
項目	内容
(1)	利用者氏名（カナ、日本語、全半角の混在が可能)、電話番号、利用者コード、住所コード、生年月日、E-mail アドレスからの検索ができること。電話番号はハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。
(2)	利用者氏名は、姓名の「名」のみでの検索も可能なこと。
(3)	利用者データ検索において生年月日、住所の郵便番号、登録館、無効理由区分で絞込みができること。
(4)	利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、性別、利用者区分、電話番号、住所、生年月日、貸出数、予約数が確認できること。
(5)	検索結果件数が予め設定した件数以下の場合、自動的に検索結果一覧画面を表示できること。
(6)	登録利用者の一覧画面表示できること。また、印刷および、各種ＯＡソフト（Ｅxcel 等）で読み込み可能な形式（ＣＳＶ形式）で出力できること。一覧印刷時は検索結果件数全件印刷と現在一覧画面表示分（１画面分）印刷とを選択できること。
(7)	検索中断件数を設定できること。
(8)	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧表等が確認できること。また、印刷もできること。
(9)	詳細画面で家族の一覧が表示できること。
(10)	貸出状況一覧が表示できること。また、個人／家族、全館／自館をワンタッチで切り替えできること。
(11)	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(12)	貸出資料の不明／紛失／弁償処理ができること。
(13)	貸出資料の詳細情報が表示できること。(資料検索結果画面相当の情報)
(14)	予約している資料一覧が表示できること。また、個人／家族の切り替えをワンタッチでできること。更に、予約解除や予約資料の詳細情報も表示できること。
(15)	予約している資料一覧では表示される情報全項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(16)	コメント入力機能連携にて利用者に通知したいコメント情報を登録できること（コメント数は無制限)。また、修正、削除もできること。
(17)	プライバシー保護のため利用者一覧及び詳細画面のままで離席した時、一定時間経過後、メニュー画面へ自動で戻ることができること。
５．利用者登録	
項目	内容
(1)	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。
(2)	利用者氏名のヨミは漢字入力した通りに自動でヨミ降りもできること。
(3)	利用者氏名のヨミは漢字入力した通りに自動でヨミ降りもできること。
(4)	家族の一人目を登録すると、以降は電話番号入力ワンタッチで利用者データを複写し、氏名、生年月日、性別等を直すだけの連続登録ができること。この時入力する電話番号はハイフン、括弧の有り、無しに関わらず複写できること。
(5)	利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。
(6)	利用者氏名・住所等を全半角混在で登録できること。生年月日を西暦で登録することもできること。
(7)	住所ファイルを持ち、町丁コードにより住所登録ができること。また、本辞書は住所だけでなく、クラス名、部署名等、自由に使用できること。利用者登録時は町コード入力または、選択で住所、郵便番号（７桁対応）が自動的に入力できること。
(8)	住所コード数も多い時等の入力負荷軽減のため、住所コードを大分類（大字等）と小分類（小字等）とで２段階入力ができること。
(9)	利用者氏名ヨミ、電話番号、生年月日で二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。
(10)	利用者の E-mail アドレスやパスワード情報の登録ができること。パスワードは非表示で暗号化対応であること。
(11)	利用者の E-mail アドレスやパスワードの変更履歴が参照できること。ただし、参照時は特定パスワード等の認証が必要であること。
(12)	年齢は生年月日からシステムが判断し自動計算であること。年次処理等の処理は不要であること。
(13)	家族共通の情報（電話番号、住所）は、家族の一人を修正することで、他の家族も一括更新できること。
(14)	新規登録時、検索で未登録確認後、登録画面に検索条件を複写できること。
(15)	コード入力項目へ入力域が移動するとコンボボックスにコード一覧が表示され、マウスで選択入力できること。また、コード値をキーボードで直接入力もできること。
(16)	郵便番号や住所名略称での住所検索ができること。
(17)	日本郵便サイトに登録されている住所データの一括登録ができること。登録した郵便番号・住所データの活用ができること。
(18)	貸出や返却でアラーム通知するコメント情報の追加、修正、削除ができること。また、１利用者につき設定できるコメント数は無制限とし、フリーワードの入力もできること。
(19)	職員認証（ログイン時の ID）によって利用者パスワードの保守期限を設定できること。

(20)	初期パスワードの自動発行機能、パスワード発行のメール通知／レシートへの印刷ができること。
６．利用者管理	
項目	内容
(1)	有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。
(2)	生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。
(3)	任意の無効日付、無効区分を指定し、一括してデータ削除できること。あくまで、任意処理であり、年度末等に自動で削除されないこと。
(4)	利用者等にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容（督促・予約連絡等）とその発信日時が確認できること。
(5)	複数の利用者データを一つの利用者データに統合することができること。
(6)	次の状況を自動判断し、利用者に対して自動で貸出、予約に関するペナルティ制御が可能なこと（現在貸出中資料への督促回数、最終督促日からの経過日数、延滞日数）
７．資料検索	
項目	内容
(1)	書名・著者名・出版社・任意定義項目・分類・ISDN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
(2)	各種の可変長マークデータから漏れなく検索ができること。(マークデータの全てを検索対象可能とする。)
(3)	AND、OR、NOT を使用し、項目間の複合高速検索ができること。
(4)	検索した結果を保存しておき、後からそれに条件を付加して再検索ができること。履歴蓄積件数に制限がないこと。また履歴同士での複合検索もできること。更に、検索履歴指定時にその時の検索条件も復元できること。
(5)	項目により、前方一致、完全一致および中間一致（分かち項目）、後方一致で認識し、検索ができること。
(6)	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角療法で指定して検索処理ができること。
(7)	うろ覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。
(8)	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料・発注中資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。
(9)	検索結果から所蔵の状態（不明資料・除籍・貸出中等）の把握ができること。また、複本に対応していること。
(10)	検索結果は、利用可能／貸出中／貸出不可能／発注あり／除籍／相互貸借資料／未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。
(11)	指示により、検索結果の印刷ができること。
(12)	検索中断件数を設定できること。また、１文字検索はチェックされ判断により検索続行するか中止するかを選択できること。
(13)	対象館を前漢、自館限定、または、任意に複数館指定して検索でき、本が今、どの館のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。
(14)	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵（ローカル）項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。
(15)	対（グループ）となる書誌項目をグループ化して表示できること。
(16)	資料区分をグループ化し、二次検索条件として指定できること。(一般書と児童書を分けて検索することが可能)
(17)	ひらながとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ゃ』、『Ａ』と『a』等）どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索できること。
(18)	上記の清音規則を任意設定できること。
(19)	洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。
(20)	資料一覧画面では通常登録順（最新が上）だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列（ソート）できること。また、その整列順は図書館で任意に設定でき、５パターン以上の設定ができること。
(21)	資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。
(22)	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。
(23)	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。
(24)	検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書・雑誌・ＡＶ等の種別毎に設定できること。
(25)	検索結果（一覧・詳細）として表示する項目の任意設定ができること。
(26)	種別（図書・雑誌・ＡＶ等）の複数指定による横断検索ができること。
(27)	検索項目として使用できる項目の任意の設定が可能であること。
(28)	画面から典拠対象の追加・修正・削除ができること。また、外部人名典拠ファイルからの一括登録もできること。
(29)	本に印刷されているＩＳＢＮバーコードの読み取り検索ができること。
(30)	発注中等の蔵書していない（未所蔵）書誌のみデータの検索ができること。
(31)	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索地未入力で全タイトル検索ができること。
(32)	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失／不明／弁償処理ができること。
(33)	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。
(34)	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。(返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応）プライバシーにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。
(35)	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード（著者名等）で再検索ができること。
(36)	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
(37)	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ（画像）情報を表示できること。
(38)	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(39)	利用状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(40)	予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
(41)	資料一覧の全体のページ数が表示できること。またページを指定してそのページまで一気にジャンプして表示できること。
８．予約	

項目	内容
(1)	予約本の現在の状態（予約中、予約棚、配送中）の管理ができること。
(2)	各処理ボタンに割り当てられたバーコードの走査により、画面上の各種処理選択ができること。
(3)	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。
(4)	予約した時間で予約順位を決めること。また予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。
(5)	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
(6)	相互貸借資料への予約をチェックし、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料に対する予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約をさせないこともできること。
(7)	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
(8)	相互貸借資料を貸出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日を超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうか判断でき、確認せずに予約させないこともできること。
(9)	予約メモ入力ができること。
(10)	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別（窓口予約、インターネット予約等）、利用者資格、資料種別（図書、雑誌等）毎も件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。
(11)	予約入力の件数統計（予約区分：窓口、ＯＰＡＣ、ＷｅｂＯＰＡＣと資料種別ごと）が出力できること。
(12)	任意に予約解除ができること。
(13)	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。
(14)	予約資料情報の一覧表が出力できること。
(15)	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本を拡張して予約をかけることができ、貸出、返却業務とも完全連携ができること。
(16)	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。
(17)	予約資料一覧画面から、レシート印刷ができること。
(18)	返却や、受入等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済み／未連絡／不在の管理もできること。
(19)	予約確保日（予約棚日）で抽出し、予約連絡ハガキを印刷できること。
(20)	予約確保日（予約棚日）で抽出し、メールで予約連絡を通知できること。また利用者毎にメール通知可否設定ができること。
(21)	予約棚（予約資料の確保状態）を変更できること。
(22)	予約毎に受取希望日を指定できること。期限が過ぎた予約は自動的に取消するのではなく、操作員の判断で取消できること
(23)	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)
(24)	ＷｅｂＯＰＡＣや館内タッチパネルＯＰＡＣからの予約依頼状況の確認ができること。予約依頼状況より、職員判断にて本予約の可否ができること。また、予約可否結果は予約者に対してメールで自動通知もできること。利用者毎にメール通知可否設定もできること。
(25)	複数の資料が全てそろった時に貸出可能とする、そろい待ち予約ができること。
(26)	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約ができること。
(27)	予約対象館を本籍館または現在館から選択できること。また、対象館をグループ館（グループ館：Ａグループ館はＡ１館とＡ２館等）毎の予約ができること。(グループ館毎にグループ化されている館名の表示ができること。)
(28)	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。
(29)	予約利用者の受取希望館の選択ができること。また、ＢＭについてはステーションの選択ができること。
(30)	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合に予約機能にて配送依頼ができること。また、複数館にある場合は依頼先館を選択でき、依頼と同時に依頼先へ配送依頼票を印刷できること。
(31)	予約者の受取希望館に合わせて複数の分館を地域（グループ）毎にまとめて設定できること。予約時には予約対象館を複数個指定するのではなく、予約対象地域を指定するだけで対象館全てに指定ができること。
(32)	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合、予約と同時に依頼先館のページプリンタに予約配送票を自動印刷できること。確保できる資料が複数館にある場合は、画面上で依頼先館を選択できること。
(33)	予約在架一覧は自館在架を優先に出力できること。

９．配送管理

項目	内容
(1)	予約配送および他館返却による配送管理ができること。誤って配送処理した場合、取消もできること。
(2)	配送館状況（A館→B館）、配送日等の状況をリアルタイムに確認ができること。
(3)	自館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼取り消しもできること。
(4)	他館から予約配送依頼されている資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼拒否もできること。
(5)	一覧画面で配送状況（配送資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等）が確認できること。
(6)	一覧画面で配送依頼状況（配送依頼資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等）が確認できること。
(7)	配送元館／配送先館毎の年間配送状況（返却時の本籍館配送、予約配送、予約取消毎の月毎配送件数）が印刷できること。
(8)	他館で利用可能な所蔵がある場合、利用可能館へ配送依頼票の出力ができること。
(9)	配送依頼先の館では配送依頼が到着していることをクライアント上でアラーム表示が可能なこと

10．督促

項目	内容
(1)	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により、督促ハガキの印刷ができること。その際、まず、該当利用者の一覧が画面に表示でき、ハガキ印刷をする利用者を任意に選択できること。また、設定で督促回数をカウントアップでき、貸出画面で確認できること。
(2)	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により督促利用者一覧表示後、メールで督促の通知ができること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。
(3)	督促対象資料中の予約資料のみ抽出し、督促ハガキを印刷、および、メール通知ができること。

(4)	返却予定日の範囲指定により、未返却者、未返却資料一覧の印刷ができること。
(5)	督促通知のメール送信の送信結果管理ができること。
11.利用者開放端末（館内ＯＰＡＣ　全般）	
項目	内容
(1)	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。
(2)	キーボードレス（タッチスクリーン）操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。
(3)	タッチスクリーン入力で，ローマ字入力とかな入力の切替がボタン操作でできること。
(4)	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。
(5)	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ＩＳＢＮ・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
(6)	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ゃ』、『A』と『ａ』等）どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索できること。
(7)	検索中断件数の設定ができること。
(8)	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。
(9)	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。
(10)	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ（画像）情報を表示できること。
(11)	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
(12)	詳細画面から予約申込ができること。
(13)	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
(14)	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
(15)	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
(16)	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
(17)	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
(18)	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。
(19)	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。また他館に限らず自館でも利用可能な場合も予約できること。
(20)	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも予約した場合、資料所在館に予約依頼票を印刷できること。
(21)	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。
(22)	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
(23)	予約完了時、利用者控えの出力ができること。
(24)	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
(25)	ＯＰＡＣ画面終了指示時に、自動的にＯＰＡＣ端末の電源切断ができること。
(26)	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。
(27)	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせ表示ができること。
(28)	ＯＰＡＣ各機能の利用回数統計が出力できること。
(29)	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。
12.利用者開放端末（館内ＯＰＡＣ　大人向け）	
項目	内容
(1)	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
(2)	検索項目を指定するキーワード検索もできること。
(3)	キーワード検索にて、全館対象／自館限定／特定館（任意の複数館）限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
(4)	ＮＤＣ分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、ＮＤＣ８版と９版の版数選択もできること。
(5)	著者名＝イケナミショウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
(6)	雑誌ジャンル（例：スポーツ、車、旅行、等）を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
(7)	ベストリーダ一覧が表示できること。ベストリーダは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
(8)	ベスト予約一覧が表示できること。
(9)	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示できること。
(10)	検索結果一覧を並び替えできること。
(11)	検索結果一覧に条件を追加し、絞込みできること。
(12)	検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先ページを指定して遷移できること。
(13)	検索結果一覧の印刷ができること。
(14)	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
(15)	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
(16)	巻号一覧に条件を追加し、絞込みできること。
(17)	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
(18)	詳細画面では主要な項目（タイトル、シリーズ、責任表示等）を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
(19)	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
(20)	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
(21)	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
(22)	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
(23)	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
(24)	こども向け読書ナビゲーション機能と連携し、表紙画像の表示ができること。
(25)	利用者カード番号とパスワードでログインできること。

(26)	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
(27)	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
(28)	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
(29)	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
(30)	相互貸借資料に対して，貸出の延期を行えないように制限できること。
(31)	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。
(32)	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
(33)	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
(34)	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
(35)	変更処理の完了通知メールの送信ができること。
13.利用者開放端末（館内 OPAC　子ども向け）	
項目	内容
(1)	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
(2)	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のＡＮＤ条件で検索できること。
(3)	こども向け画面では、こども向けの資料（区分で制御すること）に限定した検索ができること。
(4)	キーワード検索にて全館対象／自館限定／特定館（任意の複数館）限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること
(5)	著者名＝チョウシンタのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
(6)	ベストリーダ一覧が表示できること。
(7)	検索結果一覧は資料管理区分単位で表示ができること。
(8)	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
(9)	検索結果一覧の印刷ができること。
(10)	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
(11)	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
(12)	詳細画面では主要な項目（タイトル、シリーズ、責任表示等）を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
(13)	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
(14)	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
(15)	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
(16)	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
(17)	こども向け読書ナビゲーション機能と連携し、表紙画像の表示ができること。
(18)	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
(19)	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
(20)	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
(21)	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
(22)	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
(23)	相互貸借資料に対して，貸出の延期を行えないように制限できること。
(24)	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。
(25)	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
(26)	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
(27)	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
(28)	変更処理の完了通知メールの送信ができること。
14.図書管理	
項目	内容
(1)	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)
(2)	複本のデータ管理ができること。
(3)	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。
(4)	シリーズ物等の書誌情報を２階層に関連登録でき、検索できること。
(5)	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。
(6)	ＮＤＣ分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、ＮＤＣ８版と９版の版数選択もできること。
(7)	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちができること。
(8)	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
(9)	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
(10)	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
(11)	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
(12)	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
(13)	対（グループ）となる書誌項目をグループ化して登録できること。
(14)	検索結果一覧で,巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
(15)	日販マーク：新刊マーク（ＮＳマーク可変長、ＮＳマーク固定長、ニッパン発注管理用データ)、抽出マーク（ＮＳマーク可変長)、ローカルデータを項目のもれなく一括登録できること。
(16)	大阪屋マーク：新刊マーク（ＯＰＬ新刊マーク（可変長、固定長))、抽出マーク（ＯＰＬ原簿マーク（可変長、固定長))、ローカルデータ（ＯＰＬ蔵書マーク（可変長、固定長))、内容細目情報（可変長）を項目のもれなく一括登録できること。
(17)	所蔵登録画面でタグ等の切替により１画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
(18)	請求記号は別置､NDC 分類､著者記号､巻冊記号の４つに分けて登録できること｡それぞれの入力文字属性に応じ IME の ON/OFF 制御ができること。
15.雑誌管理	

項目	内容
(1)	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル／巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル（タイトル書誌）は、雑誌コードによる呼出しができること。
(2)	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。
(3)	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や 1 つのタイトル書誌からの派生／分離にも対応できること。
(4)	タイトル一覧画面より巻号（バックナンバー）一覧画面を表示できること。
(5)	巻号一覧の機能とは別に１タイトルで「2000 年 4 月号～2003 年 3 月号（2002 年夏季増刊号欠号)」というような巻号情報をまとめる機能（一括所蔵表示）があること。また、検索機能で一括所蔵表示もできること。
(6)	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。
(7)	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。
(8)	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。
(9)	巻号を「巻／号／通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。
(10)	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。
(11)	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
(12)	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
(13)	豊富なローカルデータを持てること。
(14)	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
(15)	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
(16)	対（グループ）となる書誌項目をグループ化して登録できること。
(17)	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列化する為の序数化の自動付与ができること。
(18)	書誌データを新規登録する際に、入力負荷を軽減するため、既に登録されている書誌データを複写して登録することもできること。
(19)	書誌登録画面でタブを切り替えることで、予約一覧、発注一覧内容を表示できること。
(20)	雑誌のＪＡＮコードを読み取って受入ができること。
(21)	所蔵登録画面でタグ等の切替により１画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
(22)	内容記事入力の際には１つの書誌に対して制限無く登録できること。
16. ＡＶ管理	
項目	内容
(1)	曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。
(2)	各種情報を可変長で登録し、検索できること。
(3)	複本のデータ管理ができること。
(4)	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。
(5)	シリーズ物の書誌情報を２階層に関連登録でき、検索とも密に連係できること。
(6)	著者名・シリーズ名・出版者名、タイトル等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力できること。
(7)	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。
(8)	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
(9)	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
(10)	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
(11)	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
(12)	対（グループ）となる書誌項目をグループ化して登録できること。
(13)	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
(14)	ＴＲＣマーク：ＡＶマーク（TRC-U、TRC-T）を項目のもれなく一括登録できること。
(15)	日販マーク：ＡＶマーク（ＮＨＫマーク、ニッパンＡＶマーク、ニッパンＣＤマーク）を項目のもれなく一括登録できること。
(16)	大阪屋マーク：ＡＶマーク（ＯＰＬ－ＡＶマーク（可変長、固定長））を項目のもれなく一括登録できること。
(17)	ジーサーチマーク：ＡＶマーク（Ｇマーク）を項目のもれなく一括登録できること。
(18)	日本図書館協会マーク：ＡＶマーク（日図協ＡＶマーク）を項目のもれなく一括登録できること。
(19)	Toccata マーク：ＡＶマーク（Toccata マーク）を項目のもれなく一括登録できること。
(20)	所蔵登録画面でタグ等の切替により１画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
(21)	請求記号は別置、ＮＤＣ分類、著者記号、巻冊記号の４つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じ IME の ON/OFF 制御ができること。
(22)	内容細目入力の際には１つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
17. 蔵書管理	
項目	内容
(1)	館コードにより分館の管理ができること。
(2)	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。
(3)	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。
(4)	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。
(5)	コード値（所蔵場所コード等）入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。
(6)	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、および

	バックアップとして変更内容の保存／復元ができること。
(7)	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。
(8)	区分値，貸出回数，最終貸出日等を抽出条件とし，所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括変更ができると。 例：公開配架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を，書庫配架に変更する。
(9)	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌（タイトル）情報とローカル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。
(10)	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。
(11)	複数タイトルの資料（主に雑誌）を製本（合本）することができること。一度製本したデータを元にばらすこともできること。検索で製本された元の資料情報も参照できること。
(12)	館内 OPAC 及びインターネット向けサービス（ＷｅｂＯＰＡＣ）で紹介する「おすすめの本」のバーコード指定を、オンライン登録（バーコード入力）／ＨＨＴからの一括登録のどちらでも可能なこと。
(13)	「おすすめの本」のバーコード指定資料は、一覧印刷／ＣＳＶファイル出力が可能なこと。
18. 蔵書点検	
項目	内容
(1)	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。
(2)	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。
(3)	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却（自動的に返却処理される）・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。
(4)	IC ハンディアンテナで IC タグを走査し、棚の本の在庫点検を行うことが可能であること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違い資料のチェックリストを出力可能であること。
(5)	蔵書のバーコードの未入力（点検もれ）の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力／累積し、最終的に不明資料を確認できること
(6)	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
(7)	一定（任意指定可）回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。
(8)	各館（及び場所）毎に蔵書点検ができること。
(9)	蔵書点検中に貸出処理、返却処理を実施することが可能であり、貸出、返却された資料は点検済みとなること。
19. 発注	
項目	内容
(1)	同一書誌に対する二重発注のチェックができること。
(2)	新刊案内のバーコードを走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。
(3)	雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報（月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報)より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細毎に発行予定日が自動計算され表示できること。
(4)	発注の取消しができること。
(5)	発注時処理から予算の差し引き処理が自動で行われること。
(6)	発注中の本に対して予約できること。
(7)	発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。
(8)	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館／全館の表示切り替えもできること。
(9)	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。自館／全館の表示切り替えもできること。
(10)	発注画面で、発注状況一覧が表示できること。自館／全館の表示切り替えもできること。
(11)	発注処理の前に選定データ（選書）の作成が可能であり、選定結果を確認後、発注できること。選定入力は資料検索と連携できること。これにより、複数館から選定データを起こし、発注館で一括して選定データを確認し発注処理ができること。
(12)	発注画面で「割引率」,「予算年月」,「発注状態」,「発注状態」,「発注中止区分」,「発注注記(３つまで)」を登録できること。
20. 受入	
項目	内容
(1)	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。
(2)	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。
(3)	受入行為から予算の差し引き処理が自動的に行われること。また、各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差し引き処理ができること。
(4)	雑誌等の年間一括発注（継続発注）本の受入で、該当する発行予定日の発注明細を指定して受入できること。ここで受入後、発注明細上では「受入済」と表示し、未受入／受入済の管理ができること。また、欠号や増刊の管理もできること。
(5)	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。
(6)	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。
21. 予算	
項目	内容
(1)	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力は各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。
22. インターネット向けサービス（WebOPAC 全般）	
項目	内容
(1)	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。
(2)	パソコンのブラウザ画面、携帯電話の画面のいずれでも利用できること。
(3)	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ＩＳＢＮ・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。
(4)	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例

	『や』と『ゃ』、『A』と『ａ』等）どちらで入力しても検索可能であること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索可能であること。
(5)	検索中断件数の設定ができること
(6)	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示できること。
(7)	検索結果詳細として表示する項目は任意設定できること。
(8)	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ（画像）情報を表示できること。
(9)	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
(10)	操作ガイダンスは大人用（漢字混じり）、子供用（ひらがな）、英文の３種類に対応できること。
(11)	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを表示できること。
(12)	各機能の利用回数統計が出力できること。
(13)	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
(14)	検索機能(検索項目を特定しない検索語のみの検索機能)を各図書館の公開 Web サイトへ掲載できること。
(15)	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のＡＮＤ条件で検索できる。
(16)	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。
(17)	キーワード検索にて、全館対象・自館限定等の館指定ができること。
(18)	ＮＤＣ分類一覧からの分類選択・参照入力ができること。また、この時、ＮＤＣ８版と９版の版数選択もできること。
(19)	著者名＝イケナミショウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
(20)	雑誌ジャンル（例：スポーツ、車、旅行、等）を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
(21)	ベストリーダ一覧が表示できること。ベストリーダは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
(22)	ベスト予約一覧が表示できること。
(23)	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
(24)	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示すること。
(25)	検索結果一覧を並び替えできること。
(26)	検索結果一覧に条件を追加し、絞込みできること。
(27)	検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先ページを選択して遷移できること。
(28)	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
(29)	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示されること。
(30)	巻号一覧に条件を追加し、絞込みできること。
(31)	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
(32)	詳細画面では主要な項目（タイトル、シリーズ、責任表示等）を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
(33)	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
(34)	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
(35)	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
(36)	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
(37)	詳細画面から予約申込ができること。
(38)	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
(39)	予約件数の制限がかかること、処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
(40)	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
(41)	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
(42)	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
(43)	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。
(44)	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。また，他館に限らず自館でも利用可能な場合も予約できること
(45)	予約申込時、申込内容の確認画面を表示すること。
(46)	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
(47)	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
(48)	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示されること。
(49)	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。
(50)	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込みができること。この場合、延長回数や予約により延長可否のチェックができること。
(51)	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
(52)	相互貸借資料に対して，貸出の延期を行えないように制限できること。
(53)	予約中資料照会画面から、予約取消し申込みができること。
(54)	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
(55)	利用者がパスワードを忘れてしまった場合、利用者コードと登録済みのメールアドレスにより認証可能とし、パスワードの変更が可能なこと
(56)	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
(57)	メールアドレス変更では、変更確認ＵＲＬをメール通知し、アクセスを行うことだけで変更完了できること。
(58)	利用者カード番号とパスワードでログイン中であれば，予約したい資料をカートに入れておき、まとめて予約登録を行うことが可能なこと。
(59)	新着資料一覧、ベストリーダー一覧、ベスト予約一覧の更新は、定期的にシステム側で自動的に抽出できること。
(60)	新着資料一覧、ベストリーダー一覧、ベスト予約一覧から各資料の詳細画面へ遷移できること。 また、予約・取り寄せもできること。

23. 相互貸借	
項目	内容
(1)	借受本の簡易登録ができること。
(2)	利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌（タイトル）情報の簡易登録ができること。
(3)	借受依頼の際、相互貸申込書の印刷ができること。
(4)	借受依頼によって借りた資料が届いた際、先に登録した簡易書誌（タイトル）情報に簡易所蔵（ローカル）情報を登録と連動してリクエスト予約登録ができること。(リクエストした利用者に紐づけできること)
(5)	相互貸借資料をリクエストした利用者に貸出できること。
(6)	相互貸借資料を他館に返還する際、相互貸借借受資料一覧を印刷し、資料に添付して返還できること。
(7)	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードは、そのまま利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードを付け替えることもできること。
(8)	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館蔵書と同一バーコード番号の資料でも取扱できること。貸出／返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。
(9)	他館から依頼された相互貸借資料を貸出する際、相互貸借貸出表を印刷し、添付して送付できること。
(10)	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。
(11)	年報（相互貸借館毎・月毎の貸出冊数、借受冊数、分類毎月毎の貸出冊数、借受冊数）や実績一覧（借受タイトル・貸出タイトル）が印刷できること。
24. 新着案内メールサービス	
項目	内容
(1)	電子メールによる新着案内メールサービスが提供できること。 ※新着案内メールサービス：特定テーマの最新情報を定期的に提供するサービス 例：「園芸」「光ダイオード」などのキーワードを登録しておき、登録キーワードに合致する資料が登録（受入）されたらば、その資料情報（タイトル、著者、出版者等）をメールで提供する。
(2)	利用者自身がインターネット経由で自由に情報提供を受けたい内容（キーワード）を登録できること。
(3)	利用者が申し込む情報配信内容について、自動で配信できること。
(4)	新着案内メールサービスに登録している利用者について、登録人数統計が出力できること。
25. オフライン処理	
項目	内容
(1)	電源事故や回線事故に備え、サーバが稼動していない状況でもカウンター業務ができること。
(2)	事故からの回復後、上記で処理した内容の反映ができること。
26. ＩＣタグ対応	
項目	内容
(1)	仕様書に明記したタグに対応が可能であること。
(2)	ＩＣタグを貼付した資料の複数冊同時貸出ができること。
(3)	ＩＣ機器で貸出手続きをする事でタグ内の盗難防止情報を自動的に書き換え、セキュリティゲートの持出し検知を解除できること。
(4)	ＩＣ自動貸出返却装置と連携し、利用者自身が貸出／返却が可能であること。
(5)	ＩＣゲートと連携し、資料の不正持ち出しを防止可能であること。
(6)	ＩＣタグを貼付した資料について、ＩＣタグからの資料コード読み取り、ＩＣタグへの資料情報（タイトル、所蔵場所、請求記号等）の書き込みが可能であること。
(7)	ＩＣタグを貼付した資料について、資料の配架場所や別置・請求記号等の情報についてＩＣタグへの連続書き込みが可能であること。
(8)	ＩＣタグを貼付された納品資料から、発注番号を読み取り受入処理が可能であること。
(9)	蔵書点検処理にて、ＩＣタグを貼付した資料を複数冊同時読み取りできる。また、所蔵場所を記入したＩＣタグを走査したとき、配架場所違いをチェック可能であること。
(10)	電源事故等のオフライン処理でＩＣタグを貼付した資料の処理ができること。
27. ＡＶブース管理	
項目	内容
(1)	ＡＶブースの利用予約ができること。
(2)	視聴覚資料の館内閲覧貸出処理から直接ＡＶブースの予約登録画面に遷移し、連続して処理できること。また、返却時、ＡＶブース予約終了時刻に関わらず、AV ブース利用予約の削除ができること。
(3)	利用者カード及びＡＶ資料により、ブースの利用者/利用時間が自動的に設定できること。
(4)	ＡＶブースがすべて利用されている場合、ＡＶブースの予約ができ、利用可能時刻の通知ができること。
(5)	ＡＶブース予約受付時に予約票の印刷ができること。
(6)	ＡＶブースの利用状況/予約状況が画面で確認でき、統計情報としてＣＳＶ形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。
28. セキュリティ強化機能	
項目	内容
(1)	貸出／返却／予約や、利用者登録／検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
(2)	以下のアクセス情報が保存できること。 （アクセス日／時刻、アクセス館／ＩＰアドレス／オペレータＩＤ、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号）
(3)	アクセス記録を保存する／しないを任意設定で変更できること。
(4)	保存されたアクセス記録を帳票印刷できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込み印刷ができること。

(5)	保存されたアクセス記録をＣＳＶ形式にデータ出力できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込みデータ出力もできること。
(6)	特定の利用者情報を扱う帳票印刷やデータ出力時に、パスワード認証（入力チェック）ができること。
28. 学校図書連携	
項目	内容
(1)	公共図書館と同一サーバの同一 DB 環境化において学校図書館業務の構築が可能なシステムであること。
(2)	公共図書館システムとのデータ連携を行い、学校における公共図書館の蔵書活用を支援できるシステムであること。
(3)	公共図書館と各学校図書館で複本管理ができること。
(4)	先生・司書用の機能とは別に、児童・生徒自身で貸出・返却・資料検索ができること。
(5)	児童・生徒用のインターフェースは、小学校低学年の児童が自ら利用することに十分配慮されたグラフィカルでわかりやすいものであること。タッチディスプレイでの運用できること。
(6)	児童・生徒用の返却画面で予約資料の確保ができること。
(7)	児童・生徒用の返却画面で予約資料返却時、予約情報（予約利用者のクラスと氏名、予約資料タイトル等）が表示できること。
(8)	児童・生徒用の資料検索は、公共図書館の館内ＯＰＡＣこども用と同等機能であること。
(9)	児童・生徒用の資料検索から予約申し込みができること。
(10)	児童・生徒用画面からの予約申し込みは利用者番号の入力だけでできること。運用設定に応じて、パスワード認証もできること。
(11)	図書館に設置するサーバで一括管理され、各学校の業務クライアントはＷｅｂブラウザおよびＷｅｂブラウザ用のプラグインソフトのみで動作すること。
(12)	学校で児童・生徒が使う利用者カードが、現在、公共図書館に導入されている図書館システムでも共通に利用できること。
(13)	各学校、公共図書館との資料の横断検索ができること。
(14)	クラス単位での進級/卒業処理が一括で行えること。
(15)	クラス更新後、クラス毎に出席番号を設定できること。生徒データを男女別又は男女混合で自動的に氏名順に並び替えができること。
(16)	ＣＳＶ形式のデータの取り込みによる利用者データの一括登録ができること。
(17)	学校単位での貸出規則管理ができること。
(18)	学校側で図書番号のバーコードラベル出力ができること。
(19)	公共図書館側で登録した書誌（タイトル）情報（ＭＡＲＣデータ含む）を基に学校側での複本登録ができること。
(20)	学校側でも図書・雑誌・ＡＶ資料の新規登録/修正/削除ができること。
(21)	先生・司書用機能では、公共図書館端末相当の貸出・返却・予約・資料検索ができること。
(22)	学校毎に学校用のＰＣ端末を利用してオンラインによる蔵書点検ができること。
(23)	蔵書点検で、除籍・未登録・貸出中未返却（自動的に返却処理される）・配架間違い資料のチェックリストを印刷できること。
(24)	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
(25)	一定（任意指定可）回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。除籍資料は任意に復籍する事もできること。
(26)	各種一覧・統計帳票は、Ｅｘｃｅｌと連係し印刷プレビューができること。必要に応じてプリンタに印刷もできること。
(27)	学年・クラス別による日別、月別及び年別の貸出冊数の統計帳票の出力が可能であること。
(28)	多読者貸出資料の印刷ができること。
(29)	図書バーコードを貼り替えたり、登録し直すことなく、学校間で図書の相互貸借ができること。
(30)	公共図書館、または、他校の所蔵を検索し、相互貸借依頼をかけることができること。
(31)	依頼を受けた図書館・学校は、許可/保留/拒否の回答とコメントの返信ができること。
(32)	相互貸借で貸し出された本は、貸出館・校とは別の図書館・学校へ、又貸しができること。
(33)	貸借本の受入・返却は管理画面でのバーコード読み取りのみ操作で行えること。その際、ローカル情報の移動も自動で行われること。
(34)	マークによる図書購入である場合、図書館側にて各学校分のマークの登録が可能なこと。
29. 読書推進機能	
項目	内容
(1)	利用者向け読書支援として、以下のサービスを、インターネットを通じて利用者に提供できること。 書評・評価サービス、利用者自身の仮想本棚サービス、図書館からのおすすめサービスなど。
(2)	サービス利用時は、利用者コード／パスワードによる認証が必要なこと。
(3)	当館インターネット蔵書検索サイトで既に認証後にサービス利用時は、再認証が不要であること。
(4)	当館インターネット蔵書検索で、当館蔵書資料の書評・レイティング情報が表示できること。
(5)	書評やレイティング情報の閲覧画面では、サービスと連携した資料の表紙画像も表示できること。
(6)	書評サービスにおいて、指定回数以上の違反報告があった場合（イタズラ目的の可能性がある場合）は、当館担当職員あてにメール通知ができること。
(7)	当館職員にて、不適切な書評情報の削除ができること。
(8)	当館職員にて、特定の利用者へのサービス利用制限（新規書評登録などへの追加不可）ができること。
(9)	書評の募集画面は当館ホームページやインターネット蔵書検索トップ画面からリンクできること。
(10)	書評を募集するテーマは複数設定できること。
(11)	当館おすすめ本はカテゴリ（一般・児童等）毎に登録・公開ができること。
(12)	当館おすすめ本はカテゴリ毎に絞り込みができること。
30. 帳票印刷	
項目	内容
(1)	統計資料はＥｘｃｅｌと連係し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。又Ｅｘｃｅｌで２次加工（グラフ作成等）や保存することができること。
(2)	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果が CSV 形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSV ファイル項目見出しつきで出力されること。

事業積算設計書（参考資料）

事業区分	分類	明細		員数	単位	金額
導入事業	各種端末費	①	管理用端末	1	式	
		②	事務所用端末	1	式	
		③	カウンター端末	4	式	
		④	ＯＰＡＣ端末	2	式	
		⑤	インターネット開放端末	4	式	
		⑥	学校図書館用端末	7	式	
		⑦	自動貸出機端末	2	式	
		⑧	レシートプリンタ	4	式	
		⑨	プリンタ装置	2	式	
		⑩	学校用ページプリンタ	6	式	
		⑪	ラベルプリンタ	1	式	
		⑫	通路ゲート	1	式	
		⑬	無線一体型ハンディ	2	式	
		⑭	読書手帳	2	式	
		⑮	来客カウンターシステム	1	式	
		⑯	ネットワーク機器類	1	式	
		⑰	カウンター端末用ＩＣ	3	式	
		⑱	ＩＣ連携用ソフトウェア	1	式	
		⑲	利用者カード	1	式	
	導入作業費			1	式	
	計					
運用事業	システム保守料			60	月	
	システム利用料			60	月	
	計					